

文部科学省委託事業

平成 25 年度日本 / ユネスコパートナーシップ事業

ユネスコスクール地域交流会 in 広島 発表事例集

ひろがり つながるESD実践事例



文部科学省委託事業

平成 25 年度日本 / ユネスコパートナーシップ事業

ユネスコスクール地域交流会 in 広島 発表事例集

ひろがり つながるESD実践事例



はじめに

この小冊子を手にとっていただきましたことを心より感謝申し上げます。

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）は文部科学省の委託を受け平成25年度日本／ユネスコパートナーシップ事業の一環として、広島県教育委員会協力のもと、ユネスコスクール地域交流会 in 広島を2013年12月7日に広島県広島市で開催いたしました。

このユネスコスクール地域交流会は、地域内・地域間のユネスコスクールの交流を促すことを目的として、全国各地のユネスコスクール関係者が集い、持続可能な開発のための教育（ESD）の先進事例を共有し、ユネスコスクール活動についての意見交換を行う場として、平成23年度より石川県金沢市、宮城県気仙沼市、東京都多摩市、福岡県大牟田市にて開催されてきました。

第5回目となる本交流会は、2014年11月に開催される「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議」に向けて、国内のユネスコスクール・ネットワークの維持強化を図るとともに、2015年以降のユネスコスクール活動発展に向けたテーマや課題などを共有することを目的として実施いたしました。

本冊子は、この交流会で共有された学びを、全国のユネスコスクールおよびESDに関心を寄せる方々と共有するため、「地域との連携」「はぐくみたい力」「学校間交流」「校内体制」をテーマとして行った分科会で発表された教員のみなさまの協力を得て編集し、一冊のESD実践事例集としてまとめたものです。ここに掲載されている各校の取り組みが、ESDへの理解を一層深め、ユネスコスクールの実践の広がり役に立つ資料となることを願っています。

2014年3月
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

目次

はじめに..... 3

第1部

ユネスコスクール地域交流会 in 広島

- 全体会 ー開会・基調講演・ESDユネスコ世界会議ー 8
- 特別講演..... 10
- 実践発表..... 11
- 分科会振り返り..... 12

第2部

事例紹介

- 地域との連携
 - 福山市立駅家西小学校(広島県) 16
 - 金沢市立千坂小学校(石川県) 20
 - 広島県立賀茂高等学校(広島県) 24
 - 大阪府立能勢高等学校(大阪府) 28
- はぐくみたい力
 - 広島県立広島中学校・広島高等学校(広島県) 32
 - 気仙沼市立大谷中学校(宮城県) 36



広島県立尾道北高等学校(広島県)	40
北海道斜里高等学校(北海道)	44
● 学校間交流	
長岡市立南中学校(新潟県)	48
広島県立安芸府中高等学校(広島県)	52
千葉県立千葉東高等学校(千葉県)	56
広島県立三次高等学校(広島県)	60
● 校内体制	
名古屋市立八熊小学校(愛知県)	64
広島市立古田中学校(広島県)	68
香川県立高松桜井高等学校(香川県)	72
広島大学附属中学校・高等学校(広島県)	76

資料編

● ユネスコスクール地域交流会 in 広島 開催要項	82
● ユネスコスクール地域交流会 in 広島 プログラム	84
● 参加者アンケート結果	86
● ユネスコスクールとは	88
● ユネスコスクールガイドライン	90
● ユネスコスクルー一覧	92



第1部

ユネスコスクール
地域交流会 in

広島

全体会 ー開会・基調講演・ESDユネスコ世界会議ー

期 日 2013年12月7日(土)

会 場 広島県広島市 中国新聞ホール

参加者数 約180名
分科会発表者16名、分科会ファシリテーター4名
来賓・関係者など約30名、一般参加者約 130名

主 催 文部科学省、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)

共 催 広島県教育委員会

後 援 ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)、国立大学法人広島大学、株式会社教育新聞社、広島県ユネスコスクール連絡協議会、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、広島県ユネスコ連絡協議会

開 会

はじめに主催者を代表し、ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)教育協力部の柴尾智子部長より、同交流会の趣旨説明と開催にあたりご協力いただいた関係者の方々への謝辞が述べられました。続いて広島県教育委員会の下崎邦明教育長よりあいさつがあり、「広島県教育委員会ではESD担当を設置し、ユネスコスクール加盟申請への積極的な働きかけや、ESDの取組の支援などに取り組んだ結果、12月7日現在、県内のユネスコスクール加盟校は国公私立を合わせ計34校になった。引き続き加盟を働きかけ、取組内容の更なる質的向上を目指したい」と、広島県におけるESD推進についての方針などが示されました。



ユネスコ・アジア文化センター
教育協力部長 柴尾智子氏



広島県教育委員会
教育長 下崎邦明氏

基調講演

日本におけるESDの推進について

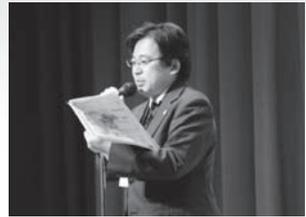
文部科学省 国際統括官付 国際統括官補佐 本村宏明氏

文部科学省を代表して基調講演をされた本村国際統括官補佐は、まずESDの歴史や日本における取り組みを振り返り、ESD推進にはたすユネスコスクールの重要な役割について強調しました。また、2014年の国連ESDの10年最終年のユネスコ世界会議の一環として行われる「ユネスコスクール世界大会」（11月、岡山市）に多くのユネスコスクールの参加を呼びかけるとともに、「ユネスコスクールガイドライン」に上げられたネットワークとしてのユネスコスクールの特徴を活かすため、「国内外における交流の円滑化、ESD活動の一層の推進」を目的とする地域のESDコンソーシアム構築に向けての文科省の新規施策が示されました。



2014年ESDユネスコ世界会議に係るあいち・なごやの取組について

2014年11月、持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議が、愛知県名古屋市で開催されます。支援実行委員会では、①会議支援、②魅力発信、③普及啓発、④取組促進の4つの柱で準備を進めており、ユネスコスクール加盟校は、誘致当初の目標である50校を超えました。



ESDユネスコ世界会議
あいち・なごや支援実行委員会
主査 島田貴宏氏

2014年ユネスコスクール世界大会について



岡山市ESD世界会議推進局
課長補佐 中島陽子氏

岡山市は2005年に世界で初めてRCEに認定され、公民館を中心とした市民活動からESDが発展してきました。市民レベルでのESD活動の充実を基礎として、ESDユネスコ世界会議のステークホルダー会合である「2014年ユネスコスクール世界大会」の成功を目指し、地域を挙げて取り組んでいます。

特別講演

ESDを学校で進めるために

国立教育政策研究所 教育課程研究センター基礎研究部総括研究官 西野真由美氏



教育の目的としてのESDは、私たち一人ひとりが、世界の人々や将来世代、また環境との「関係性の中で生きている」ことを認識し、よりよい社会づくりに「参画するための力」を育む教育であるとし、ESDの「知」、「力」、「こころ」について考えながら、ESDを意識した学びを実践するための教材選びや授業展開、評価・視点の具体例など、学校でESDを進めるにあたっての手がかりが示されました。また、ESD実践を通しての子どもたちの反応をまじえ、ESDの成果やPISAなどで世界的に求められる学力との関連性についても説明がなされました。

ESDの知と力



実践発表

アクトアイプロジェクト～主体性を育む105時間の体験学習～

広島県立広島井口高等学校 指導教諭 永尾和子氏

この教育実践において、担当教員が総合的な学習の時間を中心とする国際理解教育についての指導案をどのように構築していったのか、アメリカ・ハワイ州アイエア市にある姉妹校アイエアハイスクールとの交流における苦労や成果、生徒たちが交流する様子や英字新聞発行に至るまでの実践が発表されました。

2010年に同校がユネスコスクールに加盟承認されて以降は、このプロジェクトの目標として、ESDの視点を取り入れ、他者や社会との関係性の認識や人間性を育てることを重視した英語によるコミュニケーション能力の育成を主な目標として掲げてきたことなどが紹介されました。



永尾和子教諭



バイリンガルプレゼンテーションの練習風景



ハワイ修学旅行でのフレンドシップレイ花型の名刺を交換してレイを作るアイスブレイキングゲーム



ハワイ修学旅行でのクロスアート絵を通して相互の文化を紹介しあう活動

分科会振り返り

分科会1：地域との連携

ファシリテーター：北広島町立新庄小学校 教諭 有森 英一氏

成果として挙げられた点としては、子どもたちが地域で実体験していくなかで、地域に対する誇りや愛着が生まれ、また、子どもたち、生徒たちがいきいきと活動している、ということがありました。子どもたちの学ぶ意欲に向上があったという報告もありました。地域では、地元の教育力が向上したのではないか、学校が地域づくりや町おこしに参画することにもつながっていく、という意見もありました。

課題としては、学校が地域と連携してユネスコスクール活動を進めるにあたり、地域の方との打ち合わせ時間の確保や活動量そのものが多くなってしまうなど、学校現場においては時間の確保が難しい、という点が挙げられました。また、活動や成果を学習発表会や参観日などで保護者に披露する機会はあっても、地域に向けて発信していくということでは、ホームページの活用などがありますが、実際に子どもたちが直接御礼をするなど、地域への還元への仕方に工夫が必要であるという意見がありました。また、現在、なかなか学校と関わりにくいという風潮の中で、開かれた学校として一緒にやっという雰囲気作りも大切であるという意見や、ユネスコ協会からは、ユネスコスクールが中心的な存在となって、町づくり・地域づくりにその活動を活かしてほしい、というお話もありました。



分科会2：はぐくみたい力

ファシリテーター：多摩市立東愛宕中学校 校長 富田 広氏

4校の発表から、はぐくみたい力として挙げられたキーワードをまとめますと、①広島県立広島中学校・広島高等学校では、英語科と国語科が連携した「ことば科」の取り組みとして、ロジカルコミュニケーションという形でコミュニケーション能力や言語表現力の向上、②気仙沼市立大谷中学校では、総合的な学習の時間で行っている「大谷ハチドリ計画」で、農業・林業・漁業に繋がる学習活動を通して、いろいろな場面で繋がっていく力を大事にしながら、自然環境との共生を目指しているということ、③広島県立尾道北高等学校では、生徒会にユネスコスクール実行委員会が作られ、その活動を通して包括的、総合的なものの見方や思考力を身につけさせたいということ、④北海道斜里高等学校では、世界自然遺産に選ばれた地元知床での環境教育を通して、生徒たちが地域の、また世界の方々など、広く社会に貢献できる人材となること、などがありました。

課題としては、学校組織では異動等もあり、一つの取り組みを伝承させていくという点が難しいという意見がありました。これについては、資料等をしっかりと、教員同士が常にコミュニケーションを取りながら、うまく伝承していければ乗り越えられるのではないかと提案がありました。



分科会3：学校間交流

ファシリテーター：広島県立呉三津田高等学校 教諭 向井 緑氏

学校間交流の意義と成果を3点にまとめます。1点目はコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力が伸長したということ。2点目は多角的・総合的なものの見方ができるようになったという点。3点目は、まさに今日のような場で、他校と取組を共有し、自校の学習内容を見直し、深化させることができるということです。

次に、課題とその解決のためにすべきこととして、4点申し上げます。1点目は、取組が一過性のものとなりがちであり、交流の維持、進化、発展に課題があるという話も伺いました。これについては午前中、広島井口高等学校の発表にもあったように、継続的な年間計画、具体的なプランの継承が必要ではないかと考えます。2点目は、特に海外との交流では、どうしても経費が掛かります。地域の諸団体から経済的なサポートを得られたいへん助かります。3点目は、千葉県を取り組みを例に、学校間、異校種、地域を交えた実践的な交流が行われれば、更に活動が深まるだろうということです。4点目は、ESDやユネスコスクールに対して、まだ周知が十分とは言えないかもしれないということですが、これについては、教育委員会や行政のより強力なリーダーシップも期待をしたいということです。



分科会4：校内体制

ファシリテーター：大牟田市立吉野小学校 校長 安田 昌則氏

ユネスコスクールとしてESDに取り組むことで、教職員の意識向上、協同化が進んだということが成果として挙げられますが、一方で、課題としても、まだまだ教職員の意思統一を図る必要がある、という意見がありました。校内体制づくりについて、5つの観点からまとめます。①先生方のESDの目的、何のためにやるかということの協同化を図るためには研修の充実を図る必要があるということ。②目指す児童生徒の姿の明確化を共有する必要があるということ。③校内組織の整備として、教職員の組織、そして児童生徒の組織づくりを行うこと。またこの整備については、これまでの組織を活かす、更には新しく組織をつくるという、「活かす」と「つくる」という2つがあります。④教育課程を工夫し充実を図ること。縦軸として学年系統をもつ学習の計画、教科間のリンクということでは横軸の広がりが大事です。⑤学習活動を具体化し、先生方の協力体制を築いていくためには、校内に広めていく、深めていく、更に繋げていくという点が必要だろうと思います。

外部の支援としては、人的な配慮の応援をいただきたい、予算の助成を得たい、また、内部の支援としては教職員のみではなく、PTAの理解・応援も必要だろうという意見もありました。





第2部

ユネスコスクール
地域交流会 
広島

事例紹介

福山市立駅家西小学校

広島県

発表者：いのうえ 井上 ちな 稚菜 教諭

水・ごみ・リサイクル

地域との連携



自立と共生を目指し、豊かな感性を培う

駅家西小学校では、児童の自己肯定感の低さ、人や自然とのふれあいの希薄さなどを本校の課題と捉え、総合的な学習の時間と社会科、理科、道徳をつないだ授業を展開しています。子どもたちが仲間や地域の人との関わりの中で、豊かな感性を育み、主体的に活動できるようになることを目指しています。

4年生を対象として実施した授業「水・ごみ・リサイクル」という単元では、人間の生活の中で出されるごみや排水がどのように処理されているのかという現状について、地域へ出向いて調べることで、疑問や質問、自己課題を持たせました。今の自分にできることを見つけ、それをどう実行するか、主体的に考える時間となりました。



福山ライオンズクラブの方から植林についてお話を聞く

はぐくみたい力

- 自律心**：自分の立てたきまりに従って行動する力
- 思考力・判断力・表現力**：批判的に考える力、未来像を予測して計画を立てる力、多面的・総合的に考える力
- 責任意識**：問題解決過程で生じる自分自身の考えや、他者と共生するという社会における責任意識

活動内容

ごみや排水処理の現状を聞き取り調査

自分たちの生活の中で出されるごみがどのように処理されているのかを学ぶため、地域のクリーンセンターを訪れました。実際のゴミ処理現場の見学や、センターの職員に聞き取り調査を行なうことなどを通し、自身の体験から課題を見つけました。

植林作業や水生生物の調査

授業ではごみ処理だけについてではなく、地域の川の水生生物調査や植林なども体験しました。「ごみ」の問題をきっかけに、地元地域の自然ともふれあうことで、「水・ごみ・リサイクル」のつながりを学びました。

「自分たちができること」を実践

体験活動や情報収集から問題点、課題点を児童たちが自主的に発見し、それらに対し自分たちができることは何かを考えました。牛乳パック・トレイの回収や、給食の食器を新聞紙で拭くなど、最終的には具体的な実践活動にまでつなげています。

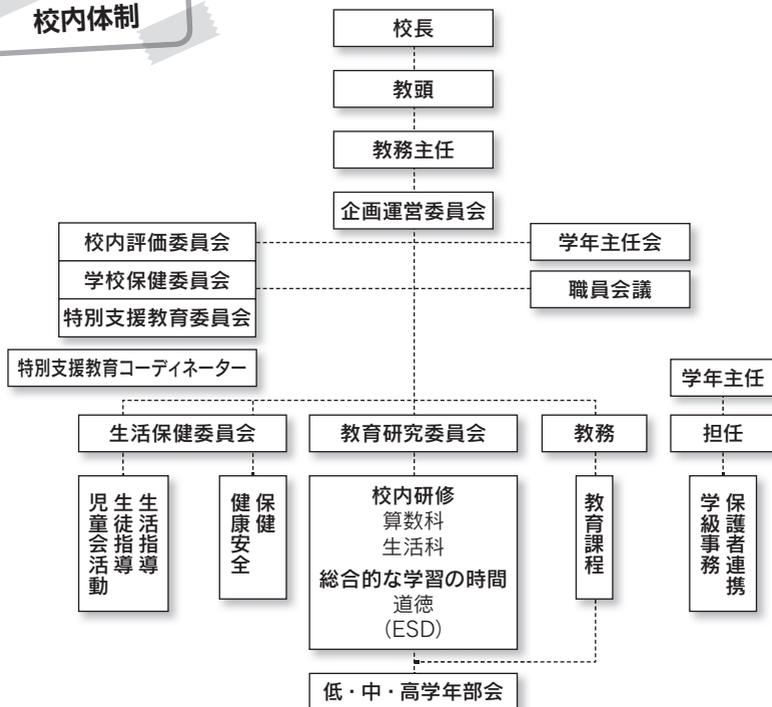
学年ごとの取り組み

- 4年生 水・ごみ・リサイクル
- 5年生 古代より続く歴史を体感しよう
今、地球が危ない！CO²の削減
- 6年生 室町文化体験学習
ふるさと駅家町 古墳フェスタ
- 全校 地域の人たちと自主防災訓練

地域の協力者

- 駅家西学区町内会
 - 駅家西学区にある工場・店舗
 - 福山市都市交通課 環境啓発課
 - 福山ライオンズクラブ
- (50音順)

校内体制



活動のポイント！

子どもたちの「何とかしたい！」という気持ちを引き出す

4年生の「水・ごみ・リサイクル」の授業では、まず子どもたち自身に課題を持たせ、それを「何とかしたい！」と思う気持ちを引き出すことを重視。そのために地元地域の様々な施設や工場、店舗などの協力を得て、ごみ処理や植林、体験教室などを開催し、子どもが「実際に体験」できる場を多く設けました。



工場にてリサイクルや水・油の処理についてお話を聞く



学 校 情 報

ふくやまし りつえき や にししょうがっこう
福山市立駅家西小学校

生徒数 ■ 333名 教職員数 ■ 28名

学校長 ■ 松岡 誠治

所在地 ■ 〒720-1133 広島県福山市駅家町近田 205-1

TEL ■ 084-976-2778 FAX ■ 084-976-6414

E-MAIL ■ shou-ekinishi@edu.city.fukuyama.hiroshima.jp

金沢市立千坂小学校

石川県

発表者：^{かわべ ゆき}川辺 有紀 教諭

賀加れんこんを守ろう

地域との連携



地域とふれあう学習活動

千坂小学校では、地域の学習素材を生かしたESDに取り組んでいます。生まれ育った地域に対する愛着を深め、地元を大切にすることをねらいです。その中でも3年生の学習テーマとなっているのは、千坂小学校の校区で昭和時代から盛んに栽培されている「加賀れんこん」。加賀れんこんとは、金沢市の伝統野菜である加賀野菜の一つとして、金沢市がブランド化しPRしている野菜です。児童たちはこのれんこんの栽培を体験しながら、千坂校区でのれんこんの歴史や流通の仕方、栽培農家をはじめとする地域の方の思いに触れ、自分たちが生まれ育った地域に対する理解を深めています。



れんこん掘り

目的

- 地域の題材について長期に渡る探究活動を行ない、その中で地域に関心や親しみを持たせる

活動内容

4つの段階で授業を構築

れんこん栽培を授業の題材とするに当たり、年間の単元計画を「知る」「関わる」「考え行動する」「広める」という4つの段階で構成しました。1年間のれんこん栽培を通して、児童たちが段階的に理解を深められるようにしています。

校内でれんこんを育てる

毎年、地域のれんこん農家に協力を得ながら、学校園のれんこん田で児童たちがれんこんを育てています。身近で作物を一から育てる体験を通し、毎日の世話の苦労や、収穫の喜びなどを実体験として得ています。

歴史や流通に関する理解を深める

れんこん栽培をただ体験するだけではなく、「加賀れんこん」の歴史を学んだり、農家で育てられたれんこんがどのように流通するのかを実際に調べる学習なども行なっています。れんこんを通して、地域のことを深く知るきっかけを作っています。

スケジュール

知る 5月 れんこんについて調べる
れんこんの苗植え

関わる 6~7月 れんこんの成長を観察

考え、行動する 9月 課題別学習

10月 学習発表会



11月 お家の方への学習発表会
れんこん掘り
れんこんパーティー



広める 12月 広める活動
(レシピ作り、看板作り、他学年との交流)

1月 れんこん農家の方への感謝の会

校内体制

学習部に所属するユネスコスクール担当を中心に、組織的にESDを推進しています。各学年が研究授業を年に一回行い、校内研修は年に3~4回行っています。校内研修には、金沢大学の鈴木克徳教授をお招きして助言や指導をいただき、実践に生かしています。また、ESDの取り組みを学校内で共有するため、各学年の掲示板の内容をESDに統一し、学習履歴を残しています。

活動のポイント！

「れんこん」を通じた地域の方とのふれあい

この授業を行うために、れんこん農家の方をはじめ公民館の方、歴史に詳しいお年寄り、スーパーの方など、様々な人の協力を得ています。こうした人々とのふれあいをきっかけに新たな交流が生まれ、児童たちは地域の人たちの生き方についても学んでいます。



れんこん苗植え



学 校 情 報

かなざわしりつち さかしやうがっこう
金沢市立千坂小学校

生徒数 ■ 648名 教職員数 ■ 41名

学校長 ■ 下川 秀一

所在地 ■ 〒920-0002 金沢市千木1丁目125番地

TEL ■ 076-258-1270 FAX ■ 076-258-0378

E-MAIL ■ chisaka-e@kanazawa-city.ed.jp

広島県立賀茂高等学校

広島県

発表者：堀江 典子^{ほりえ のりこ} 教諭（教育研究部主任）

東広島ESD研究大会

地域との連携



ESDの取り組みを地域に還元する学びの場

賀茂高等学校では全ての教科を横断するように単元内容につながりを持たせ、それらと総合的な学習の時間を利用したディベート指導によって、生徒の思考力・判断力・表現力を高めさせるための実践研究を行っています。同校では、ESDで重視する7つの能力・態度*のうち「批判的に考える力」「未来を予測して計画を立てる力」「多面的、総合的に考える力」を思考力・判断力、「コミュニケーションを行う力」を表現力と整理し、思考力・判断力・表現力を総合的に高めることを目標に学習指導を実施。その成果を、東広島ESD研究大会で発表しました。

*国立教育政策研究所により平成24年3月に発行された、『学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究最終報告』で示された【ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度】(例)より



防災の授業

はぐくみたい力

- 思考力・判断力：批判的に考える力、未来像を予測して計画を立てる力、多面的・総合的に考える力
- 表現力：コミュニケーションを行う力

活動内容

防災の視点を取り入れたESDの実践

東日本大震災を契機として防災意識は高まっていますが、学校での体系的な防災教育は十分とは言えないのが現状です。そこで賀茂高校では「防災」を全校の共通テーマとし、各教科で授業実践を行いました。その結果、思考力、判断力が高まり、周囲と連携しようとする態度の向上が認められました。

東広島ESD研究大会

2013年11月1日に開催された東広島ESD研究大会を事務局として実施。東広島地域の小学校、中学校、高等学校の他、ASPUnevNet参加大学の広島大学大学院教育学研究科や姉妹校である韓国のミチュホル外国語高等学校も交え、互いの実践の発表を通してESDの在り方等を協議しました。

韓国ミチュホル外国語高等学校との姉妹校交流

2013年に姉妹校として提携して以降、様々な交流が生まれました。生徒同士のSkypeでの交流や韓国理解講座受講、サッカー対戦によるスポーツ交流などを行ないながら、異文化に対する理解を深めています。交流の中で、生徒自身が積極的に学ぶ姿勢も見られるようになっていきます。

スケジュール

防災の視点を取り入れたESDの実践

- 4月 各教科課題設定
- 5月10日 校内ESD研修会
- 6月～7月 授業実践
- 11月1日 東広島ESD研究大会
- 11月～2月 ディベート授業

ミチュホル外国語高等学校との姉妹校交流

- 3月15日 姉妹校提携
- 6月～7月 広島韓国教育院による韓国文化講座
- 7月4日 ミチュホル外国語高等学校 校長等来校
- 7月30日～8月1日 ミチュホル外国語高等学校訪問
- 9月30日 Skypeを用いた生徒交流・交換授業
- 7月～10月 生徒同士の手紙交換
- 11月1日 東広島ESD研究大会での発表



ミチュホル外国語高等学校とのサッカー交流

活動のポイント！

生徒も教員も「つながり」を意識

ESDを実践したことによって、生徒はもちろん教職員の間でも他教科との「つながり」を重視する意識が生まれました。他教科の研究授業を積極的に見学して参考にすることや、教員同士でアイデアなどを出し合う機会も増え、総合的に授業研究が深まりました。こうした知見をユネスコスクール同士が学び合う場として、地域で行う研究会があり、さらに「つながり」が広がる可能性を感じています。



東広島ESD研究大会



学 校 情 報

ひろしまけんりつかもこうとうがっこう
広島県立賀茂高等学校

生徒数 ■ 821名 教職員数 ■ 72名

学校長 ■ 河原 富夫

所在地 ■ 〒739-0043 広島県東広島市西条西本町 16-22

TEL ■ 082-423-2559 FAX ■ 082-422-2792

E-MAIL ■ kamo-h@hiroshima-c.ed.jp

大阪府立能勢高等学校

大阪府

 発表者： うちやま かつのり 内山 勝則 教諭 (英語科・ユネスコスクールコーディネーター)

アジア地域でESDの連帯を深める学びの場

地域との連携

学年、地域、国を超え、若者世代を育てるワークショップの開催



2011年8月に地元能勢町で「アジア／太平洋 小・中・高大学生ESDワークショップ, 2011」が開催されました。このワークショップは、文部科学省と大阪府立大学人間社会学研究科が主催し、中国、韓国、フィリピン、タイ、日本の5カ国より、小・中・高・大学生および教育関係者総勢233名が参加しました。3日間に渡り、国内の「地域連携」と小・中・高・大学生の「異学年間連携」、そしてアジア・太平洋地域5カ国による「多国間連携」など、様々なテーマの学び合いが実現しました。能勢高校はこのワークショップ開催の中心的な役割を担い、生徒たちが多様な関係性の中で学び合い、参加者と共に持続可能な未来について考えを深めました。



ESD紙芝居

目的

- 持続可能な未来へ向けて、当事者である「若者世代」としての連帯感を深める
- ESDを担う教員の実践力と、世界的な連帯感を高める
- 学校間での学び合いにより、ESDの成果を共有する

活動内容

国内の「地域連携」

日本各地から同年代の若者が集まったことで、普段接する機会の少ない他県の状況などを知ることができました。生徒たちにとって、東日本大震災の後、福島の生徒たちがどのような気持ちを抱いていたのか、生の声をきけたことは大きな学びとなりました。「視野が広がった」という生徒の感想もありました。

小・中・高・大学生の「異学年間連携」

ワークショップの一環で、学校種を超えた「学習グループ」を形成し、共に課題に対する考えや感想を述べ合い、一緒に学びました。様々な年代の児童生徒が集まり、話し合いを行い「持続可能性を喪失させるもの」と「生み出すもの」との違いに気づくことができました。

海外との「多国間連携」

様々な国の人と交流し、発表を聞いたり、直接話をしたりすることで、普段目にするメディアの影響や、自分自身の「思い込み」が強かったことに気づかされた、という生徒の感想がありました。問題意識を持ったうえで、人と人がつながり合うことの大切さを、多くの生徒が実感したようです。

プログラム日程

2011年8月18日～20日

18日

オープニング (大阪府立大学 学術交流会館)

- ファミリーゲーム
- アジア4カ国からの参加者による
ESD実践発表・パフォーマンス
- 国内からESD実践発表
- 能勢町の子どもたちによる
人形浄瑠璃



19日

能勢町での学び

- 農場フィールドワーク (大阪府立能勢高校実習農場施設)
- ESD紙芝居
- ESDプレゼン (青少年自然の家「わっぱる」)
- 小中学生学び交流 (玉泉寺)
- 高大学生ESDプレゼン (青少年自然の家「わっぱる」)

20日

能勢町での学び

- 学びの振り返り ファミリーワークショップ ー学びのパスポートー
- 東北地域との連携
- 能勢町長谷の棚田見学・能勢町「人形浄瑠璃館」見学 (浄瑠璃シアター)

校内体制

ユネスコ・国際交流委員会を組織しました。構成員は委員長 (教頭)、ユネスコスクールコーディネーター (首席1名)、英語科1名です。その他、各学年団が協力します。委員会の管轄下で、生徒有志と各クラスからのユネスコ委員1名からなる「ユネスコクラブ」を組織しています。

活動のポイント！

能勢町の児童生徒の変容

能勢の児童・生徒たちは、200名以上の他の国・地域の若者が集まったこのワークショップを通して、それぞれの国や地域の課題には共通点があることを学び、とりわけ地元地域の見慣れた自然や文化が、町の貴重な財産であることや、これが多くの人々の努力によって守られてきたものであることを知りました。改めて能勢町に生きる誇りを実感することができました。



長谷の棚田説明



学 校 情 報

おおさか ぶりつ の せ こうとうがっこう
大阪府立能勢高等学校

生徒数 ■ 165名 教職員数 ■ 32名

学校長 ■ 真鍋 政明

所在地 ■ 〒563-0122 大阪府豊能郡能勢町上田尻580

TEL ■ 072-737-0666 FAX ■ 072-737-1046

E-MAIL ■ nose-hs@sbox.pref.osaka.lp.jp

広島県立広島中学校・広島高等学校

広島県

発表者： おおしま みき 大島 美紀 教諭 (英語科・ことば科主任・研究推進委員会主査)

「ことば科」の実践

はぐくみたいカ



グローバル時代における持続可能な社会の担い手をはぐくむ

広島中学校・広島高等学校では、6年間を通じた計画的・継続的な教育活動によって、「持続可能な社会」づくりの担い手となる人材を育成することに努めています。グローバル時代においても活躍できる、幅広く深い教養、そして高い知性を生徒たちが身に付けることを目指しています。

その一環として、中学校で実施されているのが「ことば科」の取り組みです。この「ことば科」では、「論理（日本語）」と「ロジカル・コミュニケーション（英語）」という2つの視点から、思考力を養う実践や英語でプレゼンテーションするときに役立つ「表現の型」をトレーニングします。授業では環境問題や人権問題などを取り上げ、生徒たちはそれらを自分たちの課題と捉えて討論します。



中学校第3学年 ことば科「英語でディベートしよう」

目的

- 「ことば科」を核とした論理的思考力・表現力の育成
- 幅広い視点を持つことにより、グローバルな視点を養う

活動内容

「論理」領域の取り組み

「論理」領域では、社会、数学、理科等との合科による問題解決的な学習を行なっています。例えば理科では、理科教員が情報分析を行なう視点を与え、国語教員が表現の仕方などを指導します。これによって、思考や表現の型をトレーニングしています。

「ロジカル・コミュニケーション」領域の取り組み

「論理」領域で身に付けた型を応用し、英語でのプレゼンテーションやディベート等を行なっています。このように段階を経ることによって、日本語・英語双方での言語運用能力を高め、生徒の言語活動を充実したものにしていくという狙いがあります。

多角的なテーマ設定

「ことば科」でのグループ学習や、日本語・英語でのディスカッションで取り上げられるテーマは様々ですが、環境問題や人権問題、国際理解、食育や伝統文化など、地球規模の問題やグローバルな視点に立ったテーマによって、生徒の視点を広げています。

学年ごとの教科とねらい

基礎充実期 中1

ことば科

筋道を立てて物事を考えたり、根拠を基にして書いたりすることができる。

基礎充実期 中2

ことば科

説得力のある意見を述べたり、構成を意識して書いたりすることができる。

探求期Ⅰ 中3

ことば科

相手を意識しながら、整合性のある論を組み立てて話したり書いたりすることができる。

探求期Ⅱ 高1

総合的な学習の時間 探究基礎

目的に応じて資料を用いながら他者と議論し、自分のものの見方や考え方を深めることができる。

発展期 高2

総合的な学習の時間

事象について全体構成を明らかにしたうえで、自分の論をより効果的に相手に伝えることができる。

発展期 高3

総合的な学習の時間

事象を多面的・多角的に考察してその特徴を明らかにするとともに、その事象と他の事象との関連を見出し、その事象の持つ意義を明らかにすることができる。

校内体制

校務運営委員会：管理職、各学年、各分掌の主任からなる組織

研究推進委員会：「ことば科」を柱とした校内の研究を推進する組織

学校経営担当：ユネスコスクールとしての運営を行うなど、校内運営を中心となって行う組織

活動のポイント！

6年間を通して学ぶ「ことばの力」

問題解決のために必要な力をつけて実際の成果を上げるためには、生徒たちが「問題や現象の背景」を理解し、そして「多面的かつ総合的なものの見方」を身に付けることが必要です。6年間の計画的なプログラムを通して、生徒たちは段階的に総合的な「ことばの力」を向上させています。その成果は、平成25年度全国学力・学習状況調査平均正答率の結果にも明確に表れました。



中学校第1学年 ことば科「ロジカル・プレゼンテーション」



学 校 情 報

ひろしまけんりつひろしまちゅうがっこう ひろしまこうとうがっこう
広島県立広島中学校・広島高等学校

生徒数 ■ 1,193名 教職員数 ■ 77名

学校長 ■ 榊原 恒雄

所在地 ■ 〒739-2125 広島県東広島市高屋町中島31-7

TEL ■ 082-491-0270 FAX ■ 082-434-7023

E-MAIL ■ hcyuko@hiroshima-c.ed.jp

気仙沼市立大谷中学校

宮城県

発表者：伊藤 浩志 いとう こうじ 教務主任

「大谷ハチドリ計画」震災後の取り組み

はぐくみたい力



地域と共に学び続ける力

大谷中学校では、地元の環境課題である「松枯れ」「磯焼け」や「ふゆみずたんぼ」を中心に据えた環境教育「大谷ハチドリ計画」を実践してきました。地域の人から協力を得て地元の林業・漁業・農業に目を向け、どのように自然と共生し、地域を活性化していくかという視点に立ったESD学習です。

しかし、2011年3月の東日本大震災によって被災し、地元地域は大きな被害を受けました。そのため継続的な活動が進められず、生徒たちは「大谷の山と水」「自然とエネルギー」などにテーマを変更して学習を進めてきました。今では、震災によって新たに復興活動、そして防災教育という視点も加わりました。



初まき

はぐくみたい力

- 自ら課題を見つけ、学び、考え、判断する力
- 心身共に鍛え抜く力
- 思いやりを持ち、協力し合い、共に生きる力

活動内容

松枯れ

大谷地域の松枯れが深刻な状況であることを受け、2009年から大谷海岸の松原再生計画のもと、下草刈りなどを中心に取り組んできました。震災で植樹したほとんどの松が流されましたが、唯一生き残った松の下草刈りを毎年継続して行っています。

磯焼け

東北大学の教授から教えを受けて「磯焼け」についての問題意識を喚起し、中学生ができることは何かを考え、大谷の漁業の現状と未来を見つめる機会にしていました。震災後は一時活動を停止しましたが、現在では磯場調査や海の生物調査を再開しています。

ふゆみずたんぼ

農薬や化学肥料、機械に頼らず、自然の力を活かしながら生きものの循環の中で稲を育てる「ふゆみずたんぼ」。同校では3年生を中心として種蒔まきから苗代づくり、田植え、稲刈り、そして販売までを体験し、大谷の農業を見つめる機会にしています。

地域の協力者

大谷ハチドリ計画

総合的な学習の時間の講師でもある地域の方が、地域コーディネーターとして学校と地域を結ぶパイプ役を担っており、その方を通して多種多様な方々との交流を進めています。

兵庫県立舞子高等学校との交流

震災後、毎年夏休みに、大谷中学校と舞子高校の生徒が環境や防災についてのワークショップを行っています。その中で、ふゆみずたんぼの草取りを一緒にするのが恒例となっています。今年度は舞子高校に加えて兵庫県のジュニアリーダーの中学生や高校生も来校し、生徒たちと交流しました。

キャラクター「マンベイ」誕生

校内でゆるキャラコンクールを実施。本吉町の魚「マンボー」とふゆみずたんぼで取れた米「大谷っ子米」をあわせた「マンベイ」が誕生しました。これは、毎年義援金をいただいている多摩市立東愛宕中学校の協力を得て制作したものです。環境保全のイメージキャラクターとして学校間交流などで活躍しています。



マンベイ

校内体制

総合的な学習の時間の担当者（教務主任）がユネスコスクール活動の担当を兼任。また、生徒会を通し、他のユネスコスクール校との交流もあります。全職員が総合的な学習の時間に関わっており、意識しなくてもユネスコスクール活動を行っている状況となっています。

活動のポイント！

地域の一員としての自覚をはぐくむ

大谷中学校を支える地域では、学校を地域住民が守り支えていこうとする良き伝統があり、生徒たちも地域の人々、保護者の願いや期待を感じています。この「地域の一員である」という生徒たちの自覚を、様々な交流活動を通して更に伸ばし、育てていくということが何よりの目標となっています。



稲刈り



学 校 情 報

けせんぬまし りつおおやちゅうがっこう
気仙沼市立大谷中学校

生徒数 ■ 92名 教職員数 ■ 14名

学校長 ■ 舩田 育久

所在地 ■ 〒988-0273 宮城県気仙沼市本吉町三島60-4

TEL ■ 0226-44-2004

E-MAIL ■ ohya-chu@kesenuma.ed.jp

広島県立尾道北高等学校

広島県

発表者：たかむら せいご高村 聖悟 教諭（地歴公民科）

2012年度のESD活動

はぐくみたい力



生徒を中心に広がりはじめたユネスコ活動

尾道北高等学校では、生徒有志が参加するユネスコスクール実行委員会を形成し、この委員会が中心となって、アイスランドの長期留学生との交流活動やユネスコ新聞の発行、「書き損じはがきプロジェクト」への参加等、様々なユネスコ活動を行っています。また、フランス・パリで開催された「世界水の日 KICK OFF ユース会議」にも世界水の日子ども議会使節団の一員として生徒が参加し、各国から集まった若者と共に、「水を通じた世界貢献」について議論を交わしました。

このような幅広い活動によって、生徒たちは国や文化、立場や考え方の違う人々を理解するとともに、相手を尊重しながら協同的に課題を解決する態度を養っています。



世界水の日 KICK OFF ユース会議で世界の若者と交流

はぐくみたい力

- 問題や現象の背景を理解し、多面的・総合的なものの見方ができる、体系的な思考力
- 人間の尊重、多様性の尊重など持続可能な発展に関する価値観
- 情報収集、分析能力

活動内容

留学生による授業

アイスランドからの長期留学生を講師として、アイスランドの人々の生活習慣、文化、エネルギーや環境政策の違いについて学びました。同年代の留学生が講師となることにより、異文化に対する興味や関心を喚起することができました。語学力の向上など、学ぶ姿勢の大切さにも気づきました。

視野を広げるキャリア教育

外務省国際協力政策課やJICA、ユネスコ・アジア文化センターなどを生徒が訪問し、職員から国際社会における課題などについて話を伺い、事前に学習したことについて更に学びを深めました。訪問後は、「将来外交官として働きたい」「高校生として何ができるか考えたい」等の感想が挙がりました。

世界水の日 KICK OFF ユース会議

2013年2月11日にユネスコス本部で開催された会議に世界水の日子ども議会使館団の一員として生徒が参加し、25カ国から集まった150名もの若者たちと、水を通じた世界貢献について議論しました。「持続可能な社会」とは全ての人の幸せが長く維持できる社会であり、そのために自分の存在感を社会の中に見出していくことが大切なことだと学びました。

活動実績

●ユネスコスクール実行委員会の活動

- ・アイスランド留学生との交流会を企画運営
- ・ユネスコ新聞の発行（年3回）
- ・書き損じハガキ回収運動参加

●2年生研修旅行におけるキャリア教育



国際交流基金日本語国際センター訪問

●留学生による授業

アイスランドの生活習慣や文化等について、2年地理選択者への講義

●世界水の日 KICK OFF ユース会議への参加

●ユネスコ日本政府代表部への表敬訪問

●ガリレオ高等学校、インターナショナルスクールへの訪問

校内体制

校内の校務分掌の中では、教育研究部がユネスコ活動を担当しています。教育研究部では「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」の企画立案、授業研究等を所掌しています。

活動のポイント！

生徒主体の「ユネスコスクール実行委員会」を設置

生徒による委員会が活動の中心となることで、継続的な活動が可能になったうえ、生徒自身が主体的に自ら考え、行動する力が養われました。生徒たちは、行事の運営などを最後までやり抜くことによって、成就感や感動を体験することもできました。職員側の理解もこれによって進みました。



ユネスコ委員会活動 留学生歓迎会



学 校 情 報

ひろしまけんりつおのみちきたこうとうがっこう
広島県立尾道北高等学校

生徒数 ■ 598名 教職員数 ■ 50名

学校長 ■ 奥田 浩久

所在地 ■ 〒722-0046 広島県尾道市長江3丁目7-1

TEL ■ 0848-37-6106 FAX ■ 0848-37-6077

E-MAIL ■ onomichikita-h@hiroshima-c.ed.jp

北海道斜里高等学校

北海道

発表者： おかだ さとし 岡田 聡 校長

知床で学ぶ自然との共生

はぐくみたい力



世界自然遺産をフィールドとした環境教育

斜里高等学校は、一昨年創立70周年を迎えた伝統校です。平成16年度に北海道で8番目の総合学科として新たなスタートを切りました。地域の教育資源、特に世界自然遺産に登録されている「知床」を活用した学習活動を積極的に展開しており、「知床自然体験学習」や特別科目「知床自然概論」等の取り組みを通して、生徒たちへの環境教育を実施しています。

1年生を対象として行なわれる「自然体験学習」では、地元施設の方からレクチャーを受けながら、知床の森林散策や苗木の植栽などを体験します。また学校設定科目である「知床自然概論」は、博物館職員等の外部講師による授業によって、より専門的な自然学習を行っています。



知床森林生態系保全センターの方々から説明を受ける

目的

- 知床の自然及びその利用に関する具体的な知識の育成
- 自然との共生に関する人間の責任と行動の拠り所となる見識の育成
- 地域の自然の魅力伝える態度とスキルの育成

活動内容

知床自然体験学習

1年次生全員を対象に実施しており、今年度は2クラス73名がそれぞれ1日ずつ参加しました。事前に理科の授業を通して、世界自然遺産登録の経緯、抱えている問題、野外活動での留意点などについて学習した上で、当日は北海道森林管理局知床森林生態系保全センターに講師を依頼し、自然公園内の森林散策、サケ・マスの遡上観察及び未来の知床の森づくり体験として、郷土樹種であるミズナラの苗木の植栽を行っています。

知床自然概論

知床の哺乳類、知床の地質の成り立ち、海浜植物・淡水魚調査、湿地林の植物、樹木の分類、100平方メートル運動等、知床博物館をはじめ、地元の自然環境の専門家等によって授業が行なわれています。野外実習やフィールドワークも多く取り入れられ、専門的な内容となっています。年度の後半には、履修生徒がそれぞれ知床の自然に関するテーマを各自で設定し、調査・研究を行い、その成果を地域の皆さんに発表する機会として課題研究発表会を実施しました。プレゼンテーション能力の育成にも役立っています。



知床博物館の学芸員とミンクの剥製作り

生徒の声

知床自然体験学習を終えて

- 笹がいっぱいあったり、木が倒れていたりして、本当の自然ってこういうことだったんだということが実感できた。
- 道外から移り住んで知床の自然を守ってくれている人たちがいる。自分も環境を守るためにできることをやって行きたい。
- ミズナラの木は毎年つける木の実の数を調節して動物から身を守っていることを知りました。木も生きるために知恵を使っていることに感動しました。
- 昔からありそうな木がたくさんあった。森の主のような老いた木、堂々として「生きている」ことを実感した。
- 木が二酸化炭素を吸収することは知っていたけれど、その量を計算する方法がわかった。自然の力強さを肌で感じ取ることができた。
- 私たちの植樹で少しでも自然を守り、温暖化を防ぐ手助けできたのなら嬉しい。自然保護に関わる人たちは本当にすごい。
- 去年先輩たちが植えた苗木、半分くらい鹿に食べられてしまって悲しくなった。私たちの植えた木、すくすく育ってほしい。
- いつも何気なく見ていた防鹿ネット、網の格子も合わせなければならなくて、こんなに巻くのが大変だとは思っていなかった。



地域の協力者

シマフクロウ環境研究会、知床海鳥研究会、(公財)知床財団、(株)知床ネイチャーオフィス、知床博物館、斜里町役場、斜里町教育委員会、東京農業大学生物産業学部、北海道森林管理局知床森林生態系保全センター ほか (50音順)

活動のポイント！

「世界遺産」のある地域の住民として

世界自然遺産知床を擁する地元の生徒として、環境や環境問題に関心を持つことはもちろん、環境の保全に配慮した望ましい働きかけができる態度を育てています。知識や技能を身に付け、よりよい環境の創造活動に主体的に参加し、環境への責任ある行動がとれる生徒の育成を目指しています。



知床博物館の学芸員を講師として森林散策



学 校 情 報

ほっかいどうしゃり こうとうがっこう
北海道斜里高等学校

生徒数 ■ 238名 教職員数 ■ 35名

学校長 ■ 岡田 聡

所在地 ■ 〒099-4116 北海道斜里郡斜里町文光町5番地1

TEL ■ 0152-23-2145 FAX ■ 0152-23-2146

E-MAIL ■ shari-z2@hokkaido-c.ed.jp

長岡市立南中学校

新潟県

 発表者： もと い けいすけ
 元井 啓介 教諭（国語科）

平和の心を未来へ

学校間交流

世代を超え、地域を超え、国を超えて、共に戦争を学ぶ

長岡の中心部に立つ南中学校の学区は、戦時中その大半が空襲で焼けてしまったという歴史を持ち、空襲経験を持つ祖父母世代が大変多い地域です。そのため本校では、平和学習の一環としてその方々の証言を聞き、それを劇や紙芝居、映像制作といった表現にまとめ、広く伝える活動を行なっています。

また単に戦災記憶の継承だけでなく、平和の実現を目指して具体的に行動できる生徒を育成するために、国内でも違う地域の生徒、そして海外の生徒等、様々な立場の人々と意見交換をしながら学習を進めました。そうして平和を求め、地道に活動している人の存在を知ること、人間そのものに対する信頼を高めることを一つの狙いとしています。



修学旅行にて中国新聞社ジュニアライターと交流

目的

- 戦争への怒りや、平和を尊ぶ心を育てる
- 戦争の本質について、科学的・論理的理解を深める
- 人間の理性と平和への信頼を培う

活動内容

広島ジュニアライターとの交流

核廃絶の世界的中心を担う広島の、中国新聞社ジュニアライターと交流し、軍事力の在り方などについて意見交換を行ないました。ジュニアライターが在籍する中学校と本校とで同じアンケートを実施し、その結果を比較。同じ日本の中学生でも育った地域によって異なる意見を持っていることが分かりました。

ハワイのラ・ピエトラ女子校との交流

真珠湾攻撃を縁として長岡市と姉妹都市交流を行っているハワイ、ホノルル市のラ・ピエトラ女子校と、インターネット回線をつないで戦争について意見交換を行いました。太平洋戦争が海外からどのように捉えられているかを知った上で、友好関係を築くことの大切さと難しさを知ることができました。

学区内の小学生との交流

生徒が活動の一環として制作した戦争の再現劇「平和の心を未来へ」の発表には、学区内の小学生も参観に訪れました。発表後、劇を観た小学生からたくさんの感想やメッセージが寄せられ、学んだ成果を後の世代に伝えたいという想いを強く抱いていた生徒たちは、大変うれしかったようでした。

スケジュール

- 2011年5月 基礎知識の学習
- 6月 長岡市内戦災関連施設バス巡検
- 7月 空襲体験者講話 1
- 7月 ハワイ日米協会会長講話
- 11月 空襲体験者講話 2
- 12月 戦災体験者との座談会
- 2012年2月 ハワイ ラ・ピエトラ女子校との意見交換
- 3月 修学旅行での中国新聞社ジュニアライターとの交流
- 5月 再現劇「平和の心を未来へ」上映

地域の協力者

中国新聞社／ヒロシマ平和メディアセンター・ジュニアライター、長岡市国際交流課、長岡戦災資料館、ハワイ・アリゾナ記念館、ラ・ピエトラ女子校、など（50音順）

校内体制

校内ユネスコスクール担当職員を中心に、職員間だけでなく生徒会でもユネスコスクールの理念の周知を図っています。生徒会では、ユネスコ新聞を月1回程度発行し、廊下に掲示しています。全校生徒による公募と投票により、自然との共生や平和の実現などESDの理念を象徴するゆるキャラ「ゆねすこん」が生まれました。



活動のポイント！

「縦」「横」双方の交流で郷土への理解を

中学生が地元の戦争経験者の方から学んだ内容を、同じ学区の小学生に伝えるという形が実現しましたが、今後は「横」のつながり——すなわち他の中学校との交流が次の課題として掲げられています。長岡市全体で、平和教育を基礎とした郷土理解を進めていくことが期待されます。



寄せられた感想の掲示



学 校 情 報

ながおかしりつみなみちゅうがっこう
長岡市立南中学校

生徒数 ■ 447名 教職員数 ■ 46名

学校長 ■ 長谷川 浩司

所在地 ■ 〒940-0081 新潟県長岡市南町2-1-1

TEL ■ 0258-32-1577 FAX ■ 0258-34-5145

E-MAIL ■ j02minami@kome100.ne.jp

広島県立安芸府中高等学校

広島県

とくなが やすこ
発表者：徳永 泰子 教諭（英語・国際科主任）

平和をテーマとした海外姉妹校との交流

学校間交流

国際科の取り組み

安芸府中高等学校は広島県内で唯一国際科を設置している県立高等学校であり、この国際科の生徒を中心として、海外姉妹校との交流等、国際理解活動を積極的に実施しています。様々な文化や背景を持つ海外の人々との触れ合いや、TV会議による交流などを通じて、国際理解を深めるのはもちろんのこと、生徒たちのコミュニケーション能力を高めています。

交流のある海外姉妹校は全部で2カ国3校。国際科の生徒たちは、オーストラリア、アメリカはハワイ、ロサンゼルスへと海外研修に訪れています。その他にも、シンガポールからのインターン生による講演や、ブラジルの高校生との交流、青年海外協力隊OBによる講演会への参加等、グローバルな視点に立った活動を行なっています。



バドポールティン校の生徒と広島平和公園にて

目的

- 平和の礎となるメッセージを発信する力
- 国際理解力・コミュニケーション能力

活動内容

海外姉妹校との交流

姉妹校の一つであるオーストラリアのベドポールディング校には、毎年夏に国際科2年生を全員派遣しています。生徒たちは10日間、現地の学生と一緒に授業を受け、ホームステイを体験します。また、ハワイのメリノール校、ロサンゼルスのカンベルホール校には隔年で学校代表の生徒を派遣し交流をしています。

平和をテーマとした交流

海外姉妹校との交流活動では、昨年から「千羽鶴プロジェクト」として、原爆で被爆し白血病で亡くなった佐々木禎子さんの話を取り上げています。生徒たちは一緒に平和の気持ちを込めてメッセージを書いて折鶴を折り、最終的にはその千羽鶴を平和記念公園に持参しています。

一日訪問による交流

姉妹校との交流以外にも、一日訪問の受け入れによる交流も行っています。今年度はシンガポールのインターンシップ生、オーストラリアの中・高校生、ブラジルからの高校生、広島大学大学院の留学生との文化交流を行いました。主な内容は日本文化の体験やプレゼンテーションなどです。

プログラム

6月

シンガポールからのインターンシップ生による講演
対象：国際科2年生全員

7月

オーストラリアのセントオーガスティンカレッジ中高校生、府中北小学校との交流
対象：国際科1・2年生全員

7月

ブラジルの高校生との交流
対象：国際科1年生のボランティア生徒

8月

海外研修旅行 オーストラリアの姉妹校 ベドポールディング校訪問
対象：国際科2年生全員

8月

県内のALT9名によるサマーセミナー
対象：国際科1年生全員

9月

青年海外協力隊OB（マラウイ共和国派遣）による国際協力講演会
対象：国際科全員

11月

広島大学大学院留学生（カンボジア・タンザニア・ペルー・モンゴル）との交流会
対象：国際科1年生全員

3月

アメリカ・ハワイの姉妹校 メリノール校へ学校代表 10名を派遣
対象：全校生徒1・2年の中から選抜された生徒

3月

ミシガン大学（今年度よりハバフォード大学）で日本語を学ぶ大学生との文化交流会（TV会議）
対象：国際科1年生全員

地域の協力者

JICA中国、JTB中国四国、ひろしま国際センター、広島大学、府中町国際交流協会、府中町立府中北小学校6年生（50音順）

活動のポイント！

主体的なメッセージの発信を目指す

生徒たちは、海外の生徒たちと交流する場を数多く経験することによって、異文化理解を深め、コミュニケーション能力を高めています。今後は交流の場を通し、生徒たちがいかに主体性を持って平和のメッセージを海外へ伝えていくかということが課題となっています。



ベドポールディング校の生徒と折り鶴づくり



学 校 情 報

ひろしまけんりつ あ き ふちゅうこうとうがっこう
広島県立安芸府中高等学校

生徒数 ■ 569名 教職員数 ■ 45名

学校長 ■ 阿萬 光朗

所在地 ■ 〒735-0004 広島県安芸郡府中町山田五丁目1-1

TEL ■ 082-282-5311 FAX ■ 082-282-5306

E-MAIL ■ akifuchu-h@hiroshima-c.ed.jp

千葉県立千葉東高等学校

千葉県

 発表者：さなだ ちえこ 真田 知恵子 教諭（教務主任）

千葉県高等学校ユネスコスクール連絡協議会

学校間交流

ユネスコスクール世界大会高校生フォーラムへの参加に向けて

千葉県でユネスコスクールに加盟している高等学校は2013年12月現在10校あります。それら加盟校の交流を促すため、2013年6月に連絡協議会が発足し、千葉東高校は事務局としての役割を担っています。8月には、教職員と生徒を対象とした研究会を開催しました。研究会では、生徒による各校の取り組みの紹介や、ESDについてのワークショップが行なわれました。

同じ県内であっても、他校の「ユネスコスクール」としての取り組みを直接聞く機会は、教職員、生徒共に意外と少ないものです。そのため、この研究会を通して、各校のESD活動の取り組み方の違いなどを知ることができました。それだけではなく、生徒たちの有意義な交流の場にもなったようです。



千葉東高校2年生によるヨーロッパ研修と自校の取り組みについての報告

目的

- 他校の生徒と交流することで他者理解を促す
- 研究会への参加により、ESD活動について考えさせる
- フォーラムの世界大会に関わり、異文化理解を深める

活動内容

他校のESD活動について知る

各校のESD活動などについての発表を聞くだけでなく、複数の学校の生徒が混ざり合い、合同でワークショップを実施しました。この経験は生徒にとって、他校との取り組みの違いを認識したものとなっただけでなく、同じ県内の生徒と共にESDについて考えるきっかけとなりました。

ユネスコスクール世界大会高校生フォーラムへの参加

2014年に岡山市で開催される「ユネスコスクール世界大会高校生フォーラム」には、千葉県のユネスコスクール4校が合同チームを作り、関東ブロック代表として参加することになりました。このフォーラムには、海外から33チーム165名、国内から9チーム45名、計210名のユネスコスクールの教職員と生徒が参加し、各国の課題を踏まえ、共通の未来を創るために協働して取り組むことを確認し、宣言文をまとめる予定です。

2014年の世界大会参加に向けて

この「ユネスコスクール世界大会高校生フォーラム」に参加する海外チームの招へいの際には、一部の海外チームの受け入れを、千葉県のユネスコスクールも担当し、一丸となって歓迎する準備を進めます。そのためには、ユネスコスクールだけでなく、千葉県ユネスコ協会連絡協議会や県教育委員会とも連携して計画を進めていく予定です。

スケジュール

- 2013年6月25日 千葉県ユネスコスクール連絡協議会(教職員)
- 2013年8月26日 千葉県ユネスコスクール研究会(教職、生徒)
- 2013年10月25日 UNESCO2013年 アジア・太平洋地域高校生ESDフォーラム
事前研修会
- 2013年11月2～4日 UNESCO2013年 アジア・太平洋地域高校生ESDフォーラム
(生徒)
- 2013年11月19日 千葉県ユネスコスクール研修会で報告(教職員)
第1回ユネスコスクール世界大会準備会議を同時開催(教職、生徒)
- 2013年12月24日 ユネスコESDパスポート*についての研修会(教職員)
- 2014年1月10日 第2回ユネスコスクール世界大会準備会議(教職、生徒)
- 2014年3月31日 第3回ユネスコスクール世界大会準備会議(教職、生徒)

*ユネスコ ESD パスポート: 日本ユネスコ協会連盟より、ユネスコスクールの児童・生徒のボランティア活動への参加促進のツールとして配布されています。

組織図

千葉県ユネスコ協会連絡協議会

千葉県高等学校ユネスコスクール連絡協議会

市川学園 市川高等学校*、君津学園 市原中央高等学校、
渋谷教育学園 幕張高等学校*、千葉県立市川昂高等学校、千葉県立国分高等学校、
千葉県立佐倉南高等学校*、千葉県立千葉東高等学校* (事務局)、
千葉県立流山おおたかの森高等学校、麗澤高等学校、
千葉黎明学園 千葉黎明高等学校

(50音順)

*は2014年「ユネスコユネスコスクール世界大会高校生フォーラム」参加校

活動のポイント！

人との交流を通して養うコミュニケーション力

国内・海外の学校と交流することで、生徒たちは自校だけではできない貴重な経験を重ねています。また、生徒たちが積極的に交流会・研究会等の活動に関わっていくことで、プレゼンテーション力やコミュニケーション能力を身に付けることにもつながっています。



ユネスコスクール世界大会高校生フォーラムに向けて千葉県チーム（4校合同）の発足会



学 校 情 報

ちばけんりつちばひがしこうとうがっこう
千葉県立千葉東高等学校

生徒数 ■ 1,053名 教職員数 ■ 83名

学校長 ■ 渡邊 茂通

所在地 ■ 〒263-0021 千葉県千葉市稲毛区轟町1丁目18番52号

TEL ■ 043-251-9221 FAX ■ 043-255-6575

E-MAIL ■ k.chibahigashi-h2@chiba-c.ed.jp

広島県立三次高等学校

広島県

発表者：福川 ^{ふくがわ} ^{りき} 力 教諭(外国語(英語)・教育研究部長)

国際交流に関する取り組み

学校間交流

身の回りの枠を超えたつながりをつくる力を育む

三次高等学校は、115年の伝統繋ぎながら、新しい文化の創造を目指し、国際交流の機会を広げ、その内容を深化させています。台湾の姉妹校との交流をはじめ、海外インターンシップ研修の実施、米国空軍士官学校カデット生の受け入れ等、生徒たちは様々な海外との交流の機会を通じて幅広い見識を得ているほか、交流に必要な語学力やコミュニケーション能力、議論を通じた積極性やプレゼンテーション力も徐々に身に付けています。

これらの教育活動では、生徒たちの「知る」「考える」「伝える」「動く」というグローバル・コンピテンスを育み、身の回りの枠を超えた「つながり」を創造できる人材になることを目標として掲げています。



姉妹校歓迎式典

はぐくみたい力

グローバル・コンピテンスの4つの力 Global Competence

- 世界を探索する：「知る」 Investigate the World
- 視点を認識する：「考える」 Recognize Perspectives
- 意見を伝達する：「伝える」 Communicate Ideas
- 行動する：「動く」 Take Action

活動内容

台湾との交流

平成22年度から、台湾の新竹高級中學（姉妹校）と台南第一女子高級中學を修学旅行で訪問しています。事前研修を通じては、異文化理解だけではなく自国文化への理解も深まり、生徒の視野が広がっています。平成23年度からは姉妹校から本校への受け入れも行っており、全校を挙げて盛大に歓迎しています。

米国空軍士官学校カデット生の受け入れ

三次新世代国際交流事業実行委員会の招へいにより三次市を訪れ、市内でインターンシップを行っている米国空軍士官学校生の訪問を受け入れ、日英両言語を使った発表や議論などを行い、国際交流に必要な資質などについて討論し、相互理解を深めました。

海外インターンシップ研修

約10名の希望者が日本で研修を経て、海外でのホームステイや現地高等教育機関、企業での就労体験を含むインターンシップ活動に参加しています。帰国後、生徒たちは自らの体験を校内に還元するだけではなく、地域にも広く伝える活動を積極的に行っています。

プログラム

台湾との交流（平成22年度～）

- 5月 新竹高級中學(姉妹校)より代表団来校
- 12月 修学旅行にて新竹高級中學(姉妹校)および台南第一女子高級中學訪問(隔年)

米国空軍士官学校カデット生の受け入れ（平成23年度～）

- 6月 体育大会参加、バイリンガル・ディスカッション

海外インターンシップ（平成24年度～）

- 11月～2月 事前研修(週1回、計15回程度)
- 3月 現地訪問(約10日間)
- 5月 成果報告会



協力団体

NPO法人スターティング・プレース、財団法人三次市教育振興会、
三次新世代国際交流事業実行委員会、三次中央ロータリークラブ（50音順）

交流相手

- 台湾 新竹高級中學(姉妹校)
台南第一女子高級中學
- 米国 The Harvey School（ニューヨーク州）
Japanese Institute of Sawtelle（カリフォルニア州）
米国空軍士官学校 United States Air Force Academy（コロラド州）
- 日本 佐賀県武雄市立武雄北中学校 他

活動のポイント！

音楽プロジェクト「夢ソングでつながる絆」への参加

ESD日米教員交流プログラムへの参加をきっかけに、日米の教職員が協力して実現した、東日本大震災の被災地支援のためのプロジェクトに音楽部の生徒が参加し、佐賀県武雄市立武雄北中学校の生徒が作詞した「僕らの夢を届けよう」のアレンジを担当しました。日米の小、中、高校生がそれぞれ合唱し、その映像を一つにつないでDVDを制作し、復興への連帯の気持ちを共有しました。



音楽プロジェクト用動画撮影風景



学 校 情 報

ひろしまけんりつ み よしこうとうがっこう
広島県立三次高等学校

生徒数 ■ 703名 教職員数 ■ 78名

学校長 ■ 梶原 督三

所在地 ■ 〒728-0017 広島県三次市南畑敷町 155

TEL ■ 0824-63-4104 FAX ■ 0824-62-0353

E-MAIL ■ miyoshi-h@hiroshima-c.ed.jp

名古屋市立八熊小学校

愛知県

発表者：いしい すずいち 校長 石井 鈴一 校長

身近につながる、未来へつながる 理科・生活科学習

校内体制

6年間を通して学べる、全学年共通の素材による体験の教材化

八熊小学校では、理科や生活科の学習において、「環境」と「エネルギー」という2つのテーマを軸に「科学の知」を獲得することを目指した取り組みを行っています。児童は、授業の中で主体的に問題を解決しながら、科学的なものの方方や考え方を身に付け、また、それが身近な自然や自分たちの生活、ひいては現代の科学技術とも関わりがあることを学んでいます。

この取り組みを実行するために、推進委員会を設置し、学年部会には各学年から代表の教諭が所属し、年間計画立案などを行っています。また授業に関しては、「環境」を担当する部会と「エネルギー」を担当する部会にわかれ、それぞれが学習指導内容を検討しています。



風で走るミニカーを水の上で走らせる様子

目的

- 地域の自然への関心を深め、環境保全の態度へつなげる
- 身近な車を教材化し、エネルギーの見方や考え方を育み、その働きを実感させる
- 体験を軸として、「科学」の有用性を実感させる

活動内容

「堀川」を中心とした環境学習

八熊小学校の近くを流れる都市河川「堀川」を教材化。堀川の汽水域が広い環境や自然、そこに生息する生物、流れる水のはたらきやものの溶け方の学習など、様々な領域の単元に関連づけた体験学習を行っています。自然観察を中心とした環境学習によって、子どもたちは地域への興味を深めると共に、環境保全について学んでいます。

「車」を素材としたエネルギー学習

エネルギーをテーマとした授業では、身近な生活と結びつきが強い「車」を教材とした体験学習を実施しています。空気やゴム、モーターの力で「ミニカー」を走らせるところから始まり、愛知工業大学エクステンションセンターの支援を得ながら、実際に人が乗れる「ビッグカー」を製作し、子どもたちが授業で走らせました。

問題解決を大切にした体験の位置付け

「体験Ⅰ 事象との出会い」で問題意識をもち、「体験Ⅱ 観察・実験」で「科学の知」を得ます。「体験ⅢA 身近につながる活用」で、この「科学の知」を身近なものにも生かし、科学技術と関連した体験「体験ⅢB 未来へつながる活用」を行います。これらの体験と言語活動が連続することで、子どもたちの主体的な問題解決能力をはぐくむことを目指しています。

年間計画

年間指導計画に基づき、全学年で取り組んでいます。

4月

グランドデザインの提示、ビジョンの明確化(職員会)
年間指導計画の確認、始業前の取り組み計画(推進委員会)、教材研究(全員)

5月～

授業実践、授業研究(全クラス)

7-8月

教材作成(全職員、PTAボランティア)、2学期用指導案検討

9月

教材研究、授業研究(全クラス)

10月

第46回全国小学校理科研究大会愛知大会での公開授業(全クラス)

1月

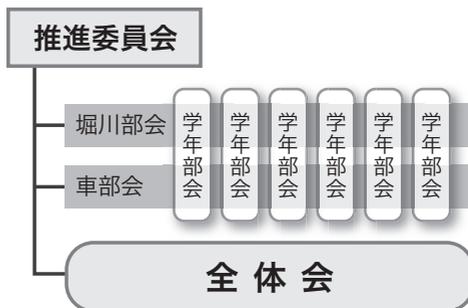
年間指導計画修正(堀川・車部会、学年部会)

2-3月

次年度計画立案(推進委員会)

校内体制

推進委員会には各学年代表が所属し、校内掲示、始業前の活動、年間指導計画、授業研究日程などを決定し、学習に関連する情報の提供を行いました。学年部会は、堀川(環境)部会と車(エネルギー)部会の2つに分かれて担当し、学年毎の学習内容を考え、それぞれの部会で検討しました。



活動のポイント！

完成まで1年を費やした「ビッグカー」

授業で使用した「ビッグカー」は、設計、加工、試作までを、運営サポーターの協力を得て、工夫を重ねながら全て自校の教員が行い、完成までに1年かかりました。人が乗り、風の力で、ゴムの力で、電気の力で動かすため、各学年の学習内容に応じた駆動パーツなども製作しています。



電池でビッグカーを走らせる様子



学 校 情 報

なごやしりつやくまはようがっこう
名古屋市立八熊小学校

生徒数 ■ 313名 教職員数 ■ 25名

学校長 ■ 石井 鈴一

所在地 ■ 〒454-0013 名古屋市中川区八熊一丁目8番30号

TEL ■ 052-331-0181 FAX ■ 052-322-7382

E-MAIL ■ yaguma-e@nagoya-c.ed.jp

広島市立古田中学校

広島県

発表者：まつおか のりこ 松岡 令子 教諭（英語・研究部長）

ESDの学校教育導入に関する実践的研究

校内体制



みんなが幸せで平和な社会への志向

古田中学校では、ESDの目指す「持続可能な社会」を「よりよい社会」と定義し、「みんなが幸せで平和な社会」を実現するためには何ができるか、何をすべきかを自ら考え、行動できる生徒を育成するために、全教育課程を通じて、全教職員でESD教育に取り組んでいます。

そのために、教育課程全体を表した「ESDシステムマップ」、更に各教科間で横断的な学習が行えるようにするための「ESDカレンダー」と「ESDクロスカリキュラム」を作成し、活用しています。これらの活動は、総合的な学習の時間を核として、言語・数理運用科、特別活動、道徳等まで含めた横断的・総合的な学習活動の中で実践されています。



日本・イスラエル・パレスチナ学生会議

はぐくみたい力

- 思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力、実行力の5つの力
- 持続可能な社会の担い手として、世界に目を向け、身近な生活の中で実行できる力

活動内容

ESDシステムマップ

ESDシステムマップは、ESD教育の「ねらい・主旨」や「各教科・領域のESDに関連した内容」等について、それらがどのように関連しているのか、全体を把握できるように作られています。このシステムマップを活用することで、教育課程全体を全ての教職員で共有できるようにしています。

ESDカレンダー

活動全てを時系列に網羅したのがESDカレンダーです。より相互に「つながり、関わり合った」実践が行えるように、各教科・領域の授業内容を明確化しています。教職員が見た時に、自分の担当する授業がどうESDと関わっているのかがすぐに理解できるようになっています。

ESDクロスカリキュラム

ESDカレンダーとは別に、「総合的な学習の時間」の主題ごとに授業内容を整理したのが「クロスカリキュラム」です。学年ごとに主題が設けられているため、そのテーマに焦点を当てているものです。このカリキュラムによって、各教科、領域のつながりがよりわかりやすくなりました。

地域の協力者と実践

ユネスコスクール実行委員会の活動

●古田公民館

- ・韓国との交流（2007年～）
- ・生徒活動展示（2012年～、年2、3回）
- ・「このまちにくらいしたいプロジェクト」（2013年10月～） ほか

●行者山 太光寺

- ・カンボジアの僧侶、学校との交流（2006年～）
- ・福島の子どもたちとの交流会（2013年8月） ほか

●社会福祉協議会等地域活動

- ・平和を考える会（古田学区社会福祉協議会） ほか

●広島大学附属東雲中学校

- ・東雲国際ミーティング（2010年～） ほか

●総合的な学習の時間におけるゲストティーチャー（2012年、2013年）

- ・東和空氏（太光寺副住職）、波田建一氏（気象予報士）、佐藤亮太氏（NPO）、
S・リーパー氏（広島平和文化センター元理事長） ほか多数

●その他、学校行事や生徒会活動等

- ・日本文化を学ぶ・茶道体験（茶道上田宗箇流師範代 福間宗伸氏）
- ・認知症サポーター養成講座（古田地域包括支援センター、2012年～） ほか

校内体制

校長、教頭、主幹教諭のリーダーシップのもと、研究部がESD推進を主管しています。校務運営委員会で協議しながら、教務部、生徒指導部、生徒会部、事務部の4校務分掌に各ESD推進担当を配置して、各分掌部会に係る取組及び全体化を図りながら実践を行っています。

活動のポイント！

全教職員でESD教育を実践するために

ESD活動を充実させ、生徒を導いていくためには、教職員が自ら未来社会を、子どもの姿・活動を、教育課程全体を、そして地域・社会とのかかわりを「イメージする力」が必要です。ときには価値観も転換し、イメージ力を磨いて、目標と指導と評価の一体化を図っていくことが大切であると考えます。



ふるた多世代寺子屋「このまちに誇りたいプロジェクト」



学 校 情 報

ひろしましりつふるたちゅうがっこう
広島市立古田中学校

生徒数 ■ 870名 教職員数 ■ 60名

学校長 ■ 今崎 英明

所在地 ■ 〒733-0874 広島県広島市西区古江西町27-1

TEL ■ 082-271-4661 FAX ■ 082-271-4976

E-MAIL ■ huruta-j@e.city.hiroshima.jp

香川県立高松桜井高等学校

香川県

発表者： はしもと かずゆき 橋本 和之 教諭 (特別活動部 地歴公民科)

生徒が主体となったESD活動

全校生徒参加による「ヒートアイランド現象」調査



高松桜井高等学校では、環境問題の一つである「ヒートアイランド現象」をテーマとして取り上げ、全校生徒および教職員825名で調査活動を行なっています。環境委員会や生徒会を中心として、生徒自身が主体になって活動に取り組むことで、生徒たちの環境問題に対する意識を高めています。

校内では、環境委員会で様々な提案が作られ、それが全校生徒に発信されているほか、生徒からの提案も各クラス環境委員を通じて環境委員会に提出されており、都度審議のうえ決定がなされています。またこのような生徒主体の活動を実施するために、希望者を募って環境リーダー養成研修を実施し、活動の充実を図っています。



校内環境活動の一例～見える化グラフの作成～

目的

- 環境問題に対する意識を高め、生徒主体の活動を促進する
- 自ら主体的に学び、考え、行動する生徒を育成する

活動内容

ヒートアイランド現象調査等を通じた環境教育

環境問題に対する意識を高めるため、全校生徒と教職員によるヒートアイランド現象調査を行っています。これは、大都市で見られる現象が高松市のような地方都市でも見られるかという調査で、測定の結果得られたデータに対して考察を加え、最終的にはそれを文化祭で発表しています。本調査は、環境問題に対して意識を高めることをねらいとしており、調査の結果も重要ですが、それ以上に調査の過程を重視して行っています。

生徒による年間を通じた環境整備活動

「意識から行動へ」を実現するために、環境リーダーや環境委員を中心に出される「さくらしい環境宣言」に基づいて、年間を通して継続的な活動を実施しています。環境だよりの作成等を生徒が行い、校内の節電・節水や、中庭の池清掃、花時計整備等といった中庭環境整備活動に取り組んでいます。

地域と連携した清掃活動

校内での活動にとどまらず、生徒たちは「地域一斉清掃」「ため池浄化作戦」など地域のコミュニティーセンター等と連携した環境活動も積極的に行っています。学校で学んだことを、実践的な行動として家庭や地域社会へとつなげています。

スケジュール

- **ヒートアイランド現象調査**
 - 調査は2日間。6月から準備を始め、マニュアル作成、コンピューター入力、職員研修、温度計補正、予備調査、本調査データ集計、文化祭発表など9月初旬まで継続
- **環境リーダー養成研修**
 - 8月上旬に2泊3日で実施
- **校内環境活動(節電・節水活動など)**
 - 9月に環境リーダーにより発表される「さくらい環境宣言」をもとに、1年間継続
- **地域との連携活動(一斉清掃、ため池浄化作戦など)**
 - 7月、11月、3月に実施

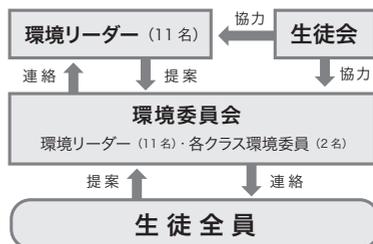
地域の協力者

ヒートアイランド現象調査では、地元民間企業と連携し、香川県航空写真の提供、調査後の地図作成などに関してご協力をいただいています。その他、コミュニティーセンター等との連携も図っています。

校内体制

- 管理職、特別活動部教員を中心に企画がなされ、職員会議で提案、審議のもと決定。実施にあたり必要な場合は、職員研修を行ったり、教育研究部などの関連部署と協議をしたりしています。
- 生徒組織は、環境リーダーおよび環境委員による環境委員会が中心。生徒会がそれを補佐する形となっています。

環境活動 生徒組織図



活動のポイント！

校内体制づくりのためのリーダー育成

生徒主体の取り組みを実現していくために、環境問題に積極的に取り組むリーダーを養成するための「環境リーダー養成研修」を行っています。豊かな自然の中での体験活動を通した環境学習とワークショップを行い、生徒自身の意識を高めるとともに、宿泊型研修とすることで生徒間の「横」のつながりを作り出しその後の校内での活動へとつなげています。



環境リーダー養成研修におけるワークショップ
～さくらい環境宣言をつくろう～の様子



学 校 情 報

かがわけんりつたかまつさくらい こうとうがっこう
香川県立高松桜井高等学校

生徒数 ■ 763名 教職員数 ■ 62名

学校長 ■ 金川 悟

所在地 ■ 〒761-8076 香川県高松市多肥上町 1250 番地

TEL ■ 087-869-1010 FAX ■ 087-869-1013

E-MAIL ■ takamatsusakuraiko@pref.kagawa.lg.jp

広島大学附属中学校・高等学校

広島県

発表者：伊藤 直哉 いとう なおや 教諭(社会科・地理歴史科・ユネスコ協同学校推進室)

生徒主体のユネスコ活動

校内体制づくりとその課題



本校は、1953年のASPnet設立当時からの加盟校です。それ以来、今日に至るまで世界情勢の変化のなかでユネスコ教育をどうとらえるかは時代とともに変わってきましたが、「ユネスコ教育」と「ESD」は同じものであると考え、学校全体の教育活動として取り組んでいます。

中学校では、学年行事としてユネスコ活動を設定し、似島平和学習、戦没者慰霊追悼の集い、キャップ分別、修学旅行、企業訪問などを行っています。これらは伝統の「自主自律」という校風のもと、生徒自身にも企画運営させる機会を設けています。高等学校には、「ユネスコ委員会」や「ユネスコ班（クラブ活動）」があり、それらの生徒が中心となって活動に取り組んでいます。



アフリカに送付する靴の洗浄

目的

- ユネスコ憲章の普及・実現
- 持続可能な社会の形成者の育成
- 校訓を活かした活動の実践

活動内容

ユネスコ班の活動

平和の鐘を鳴らそう、カンボジアスタディーツアーへの参加、アフリカへの靴の送付、フェアトレード・復興支援バザーなどの活動行っています。校外でも活動するユネスコ班には、その経験を生かし、校内のユネスコ活動やESDのリーダーとなることを期待しています。

ユネスコ班の課題

ユネスコ班の活動は、生徒が主体的に活動できるところにその良さがありますが、クラブ活動として行っているため、平成21年度は班員2名であったのが、24年度は32名になるなど、班員の増減による活動の盛衰があり、活動が断続的になることが課題の一つとなっています。また、活動の意義などが、学校全体に広がりにくいという側面もあります。

ユネスコ委員会

ユネスコ委員会は2008年に設立され、各クラスから1名の委員が選出されています。委員会の設立により、活動の呼びかけが各クラスに確実に伝わるようになりました。文化祭のポスター発表など、全校生徒に対してユネスコ活動への理解や協力を求め、校内のユネスコ活動が途絶えないようにしています。

教科教育におけるESD授業開発

高校2年の「総合的な学習の時間」を軸に、教科を越えた議論を行い、カリキュラムを見直し、全教科でESDに取り組む体制づくりを進めています。現在は可能性を追究する段階にあります。

	1. 総合的な学習の時間	2. 各教科の研究授業
対象	高校2年生	中学1～3年生・高校1～2年生
実施回数	週1時間	年間1～4本の授業
領域	ESD研究 各教科が協力・連携して授業や実習を行う	ESD汎論 平常授業を再構築する
目標	本校が設定した目標（SSH） 持続可能な社会を先導する人材の育成	学習指導要領（各教科目標）
授業タイプ	B教材の再構築、C授業間の連携 D教材研究協力、E授業実践協力	A教材の再構築
体制	校内で担当者を選出して授業を開発・実践 教科をこえた協力	各教科で担当者を決めて授業を開発・実践
内容	講座制の授業、実習、フィールドワークなどを行い、今年度は「瀬戸内海」をテーマに実施している。	全体の活動を通して、生徒が「今自分に何ができるか」だけではなく、自己の進路を踏まえ「将来の自分に何ができるか」を考えさせることを課題としている。

校内体制

学年	授業		特別活動			
高3	総合的な学習の時間		ユネスコ班（クラブ）	ユネスコ委員会		
高2						
高1	各教科によるESD授業開発				企業訪問	
中3						
中2						平和学習
中1						
企画運営	【ESD汎論】 各教科の教員	【ESD研究】 各教科の教員	ユネスコ班（クラブ）	ユネスコ委員会	中学校の各学年	

活動のポイント！

生徒主体のユネスコ活動をサポートする教職員の役割

生徒主体のユネスコ活動を支えるため、ユネスコ協同学校推進室の教員やクラブ顧問、関連の校務分掌担当教員が支援を行っています。例えば、活動には「持続可能性」「次世代」という視点があることに気付かせたり、企業、NPO、地域の人々と生徒のつながりをつくるよう心がけています。また、生徒間で活動に対する温度差がある場合などは、理解と協力を一度に求めすぎないよう指導しています。活動を継続させるためには、新たな企画や活動を増やし過ぎないようにすることも重要であると考えています。



総合的な学習の時間「ハチの干潟実習」



学 校 情 報

ひろしまだいがく ぶんぞくちゅうがっこう こうとうがっこう
広島大学附属中学校・高等学校

生徒数 ■ 中349名 高576名 教職員数 ■ 83名

学校長 ■ 古賀 一博

所在地 ■ 〒734-0005 広島県広島市南区翠1丁目1-1

TEL ■ 082-251-0192 FAX ■ 082-252-0725

E-MAIL ■ ml-unesco-fsc@ml.hiroshima-u.ac.jp

資料編

ユネスコスクール地域交流会 in 広島

開催日：2013 年 12 月 7 日(土) 開催地：広島県広島市

会場：中国新聞ホール（中国新聞ビル7F）

開催要項

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）は文部科学省の委託を受け、平成 25 年度日本/ユネスコパートナーシップ事業の一環として広島県教育委員会との共催により、2013 年 12 月 7 日（土）広島県広島市において「ユネスコスクール地域交流会 in 広島」を開催します。

このユネスコスクール地域交流会は、地域内・地域間のユネスコスクールの交流を促すことを目的として、全国各地のユネスコスクール関係者が集い、持続可能な開発のための教育（ESD）先進事例を共有すると同時に、ユネスコスクール活動についての意見交換を行う場として平成 23 年度より石川県金沢市、宮城県気仙沼市、東京都多摩市、福岡県大牟田市にて開催されてきました。

第 5 回目となる本交流会は 2014 年の世界大会に向けてユネスコスクール・ネットワークの維持強化を図るとともに、2015 年以降のユネスコスクール活動発展に向けたテーマや課題を共有することを目的として、広島県において開催します。

広島は県を挙げてユネスコスクールを推進しており、全校種において幅広く ESD が実践されていますが、県内のユネスコスクールの約半数が高等学校という特徴があります。ここに地域内外より広く参加を呼びかけ、地域や校種を超えた応用可能な好事例を学び合い、発信することを目指します。

主催：文部科学省、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

共催：広島県教育委員会

後援：ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet）、国立大学法人広島大学、株式会社教育新聞社、広島県ユネスコスクール連絡協議会、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、広島県ユネスコ連絡協議会

1. 日時 2013 年 12 月 7 日（土） 9：30～16：45
2. 場所 中国新聞ホール（中国新聞ビル 7F）
〒730-8677 広島県広島市中区土橋町 7 番 1 号 TEL 082-236-2455
3. 対象 ユネスコスクール教職員、ユネスコスクール加盟申請中および検討中の学校教職員、ユネスコ活動や ESD に関心のある教職員および行政職員、ESD を推進している団体や企業など
4. 参加申し込み方法
ユネスコスクール公式ウェブサイトへの登録または一般参加申込フォームの FAX 送信

平成 25 年度 日本/ユネスコパートナーシップ事業

プログラム概要

時間	内容
9:00	開場 受付開始
9:30-9:40	開会あいさつ 広島県教育委員会 趣旨説明 ユネスコ・アジア文化センター
9:40-10:10	基調講演 文部科学省
10:10-10:20	2014 年ユネスコスクール世界大会について:ご案内
10:20-11:20	特別講演 国立教育政策研究所
11:20-11:30	休憩
11:30-12:30	実践発表 広島県立広島井口高等学校
12:30-14:00	昼食休憩
14:00-15:50	分科会 1. 地域との連携 2. はぐくみたい力 3. 学校間交流 4. 校内体制
15:50-16:00	休憩
16:00-16:30	全体会 分科会振り返り
16:30-16:45	閉会

問い合わせ先

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

担当: 杉原、齋藤

〒162-8484 東京都新宿区袋町 6 (日本出版会館内)

電話: 03-3269-4559 Fax: 03-3269-4510

E-mail: webmaster@accu.or.jp

ユネスコスクール公式ウェブサイト: <http://www.unesco-school.jp/>

平成 25 年度日本ノユネスコパートナーシップ事業

ユネスコスクール地域交流会 in 広島

開催日: 2013 年 12 月 7 日(土) 開催地: 広島県広島市

会場: 中国新聞ホール (中国新聞ビル7F)

プログラム

司会 : 広島県教育委員会 義務教育指導課

主任指導主事 藤田典生

09:00	開場 受付開始
09:30-09:40	開会あいさつ ユネスコ・アジア文化センター(ACCU) 教育協力部部长 柴尾智子 広島県教育委員会教育長 下崎邦明
09:40-10:10	基調講演「日本におけるESDの推進について」 文部科学省 国際統括官補佐 本村宏明
10:10-10:20	2014年ESDユネスコ世界会議に係るあいち・なごやの取組について ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会 主査 島田貴宏 2014年ユネスコスクール世界大会について 岡山市ESD世界会議推進局 課長補佐 中島陽子
10:20-11:20	特別講演「ESDを学校で進めるために」 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 基礎研究部 総括研究官 西野真由美
11:20-11:30	休憩
11:30-12:30	実践発表「アクティブプロジェクト～主体性を育む105時間の体験学習～」 広島県立広島井口高等学校 指導教諭 永尾和子
12:30-14:00	昼食休憩
14:00-15:50	分科会 分科会テーマとファシリテーター 1. 地域との連携: 北広島町立新庄小学校 教諭 有森英一 2. はぐくみたい力: 多摩市立東愛宕中学校 校長 富田広 3. 学校間交流: 広島県立呉三津田高等学校 教諭 向井緑 4. 校内体制: 大牟田市立吉野小学校 校長 安田昌則 *次ページに「分科会発表表一覧」掲載。
15:50-16:00	休憩・移動
16:00-16:30	分科会振り返り 進行: ユネスコ・アジア文化センター(ACCU) 教育協力部部长 柴尾智子 分科会ファシリテーターからの発表と質疑応答
16:30-16:45	閉会あいさつ 国立大学法人広島大学 教育学研究科 教授 樋口聡 広島県ユネスコ連絡協議会 会長 亀井章 広島県ユネスコスクール連絡協議会 会長 阿萬光朗 (広島県立安芸府中高等学校 校長)

* 敬称略

平成 25 年度日本／ユネスコパートナーシップ事業

ユネスコスクール地域交流会 in 広島**分科会発表表一覧**

分科会日程:2013 年 12 月 7 日(土) 14:00~15:50

分科会 1:地域との連携

ファシリテーター:北広島町立新庄小学校 教諭 有森英一

於:会議室 704

発表1	広島県	福山市立駅家西小学校	教諭 井上稚菜
発表2	石川県	金沢市立千坂小学校	教諭 川辺有紀
発表3	広島県	広島県立賀茂高等学校	教諭 堀江典子
発表4	大阪府	大阪府立能勢高等学校	首席教諭 内山勝則

分科会 2:はぐくみたい力

ファシリテーター:多摩市立東愛宕中学校 校長 冨田広

於:ホール

発表1	広島県	広島県立広島中学校	教諭 大島美紀
発表2	宮城県	気仙沼市立大谷中学校	教諭 伊藤浩志
発表3	広島県	広島県立尾道北高等学校	教諭 高村聖悟
発表4	北海道	北海道斜里高等学校	校長 岡田聡

分科会 3:学校間交流

ファシリテーター:広島県立呉三津田高等学校 教諭 向井緑

於:会議室 703

発表1	新潟県	長岡市立南中学校	教諭 元井啓介
発表2	広島県	広島県立安芸府中高等学校	教諭 徳永泰子
発表3	千葉県	千葉県立千葉東高等学校	教諭 真田知恵子
発表4	広島県	広島県立三次高等学校	教諭 福川力

分科会 4:校内体制

ファシリテーター:大牟田市立吉野小学校 校長 安田昌則

於:会議室 701

発表1	愛知県	名古屋市立八熊小学校	校長 石井鈴一
発表2	広島県	広島市立古田中学校	教諭 松岡令子
発表3	香川県	香川県立高松桜井高等学校	教諭 橋本和之
発表4	広島県	広島大学附属高等学校	教諭 伊藤直哉

*敬称略

参加者アンケート結果

有効回答数 81件

1. あなたの所属する学校はユネスコスクールですか？



2. どのような目的で、本交流会に参加されましたか？（複数回答）

1. 自校の取り組みの参考にするため 51件
2. ユネスコスクールの取り組みに興味があったため 20件
3. ESDに関心があったため 31件
4. 学校で参加することを勧められたため 20件
5. ユネスコスクールの登録を検討している 2件
6. その他（具体的にご記入ください） 5件

その他の記述式回答より抜粋

- 申請中であるため、校内でより一丸となった推進をしていくため。
- 教科や総合的な学習の指導に役立てるため。
- 広島ユネスコ協会としてわずかでも役立てることはないだろうか。現場の現状を知りたい。
- 来年の世界大会についての情報を得たい。具体的な詳しいプログラムを知りたい。
- 校内でESD推進についての共有理解・協力体制を構築していくための効果的な事例の情報を得るため。
- ユネスコスクールがESD推進の拠点であるという役割が認識できた。

分科会事前アンケートからの抜粋

1. ユネスコスクールの成果にはどのような点があげられると思いますか。

- 具体的な到達目標の設定ができ、それに向けての具体的な方策を集団として取り組める点。
- 学ぶ内容ありきではなく、育てたい力を意識した活動が展開されつつあること。
- ESD推進により教育の質の向上が図られていること。
- プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の育成につながる。
- 他校と触れ合うことで自校との違いに気づくことができる。
- ユネスコスクールについて、学校として共通理解を持つことができ、一丸となって取り組むことができる。
- 学内での論議が集まり内容の充実した指導につながる。内容の精選ができる。

2. ユネスコスクールの課題としてどのような点があげられると思いますか。

- 評価の視点があいまい、あるいは教職員で共通理解されていない。
- 交流のきっかけ作り。学校間交流の維持・発展。継続可能な交流のあり方。
- ユネスコを含め文化的な活動に対して理解が得られにくい。
- 教員の間にも温度差があり、それを縮めていくこと。
- 「余分な仕事が増える」といった感覚になること。
- ESDの意義、実際の取組の分かりにくさ。「何をやるのかわかりにくい」という疑問に対して、有効な解決策を見出せていないこと。

3. 課題解決のために、学校を含む各主体（教育委員会、保護者・地域、大学やユネスコ協会、ACCU、企業、他、支援団体・組織）、国、研究機関、ユネスコ（国際機関）などには、どのようなことが考えられますか。

- 交流や事業のコーディネートをしてくれる機関が地域ごとに存在すると大きな支援になると考える。
- ESD推進に係る学習プログラムのフレームとなるものとチェックリストの作成。
- 研修会の開催
- 交流のマッチング
- 研究助成、人的な配慮、予算措置
- 先進的な実践事例の紹介
- 同地域での小中高の連携

ユネスコスクールとは

「ユネスコスクール」は
ASPnet (UNESCO Associated Schools Project Network) の
日本での呼称です。

ユネスコスクールは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校です。文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールをESDの推進拠点として位置付けています。平成25年6月現在、世界181か国の国・地域で9,633校のユネスコスクールがあります。日本国内の加盟校数は、「国連持続可能な開発のための教育の10年 (DESD)」が始まった平成17年から飛躍的に増加しており、平成26年2月時点で675校となり、1か国当たりの加盟校数としては、世界最大となっています。

参考：ユネスコ憲章（抜粋）

第1条 目的及び任務

1 この機関の目的は、国際連合憲章が世界の諸人民に対して人種、性、言葉又は宗教の差別なく確認している正義、法の支配、人権及び基本的自由に対する普遍的な尊重を助長するために教育、科学及び文化を通じて諸国民の間の協力を促進することによって、平和及び安全に貢献することである。

ユネスコスクールの活動目的

- ユネスコスクール・ネットワークの活用による世界中の学校と生徒間・教師間の交流を通じ、情報や体験を分かち合うこと
- 地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指すこと

* 参照： <http://www.mext.go.jp/unesco/004/1339976.htm>

- ESDに関連するイベントの最新情報や、各校の実践、役に立つ教材、ユネスコスクールをサポートする団体・機関などの情報を発信しています。
- ユネスコスクールには、ログイン ID・パスワードが発行され、ユネスコスクールが自ら情報発信したり、意見交換などを行うことができます。

ユネスコスクール活用例

- ◆ 「加盟校情報」に学校情報や取り組み内容を紹介できます。
 - ◆ 「教材ルーム」にオリジナル教材や、おすすめの教材を紹介できます。
 - ◆ 「地域情報ルーム」や「カレンダー」に研究会や交流会などの案内を発信できます。
 - ◆ 「みんなの掲示板」では、情報発信したり、意見交換を行うことができます。
 - ◆ 海外ユネスコスクールとの交流を始めるため、パートナー校を探すことができます。
- 『ユネスコスクール公式webサイト活用ガイド』では、サイトの活用方法を分かりやすく紹介しています。ユネスコスクール公式ウェブサイトからダウンロードしてご活用ください。



ユネスコスクールガイドライン

●● はじめに

ユネスコスクールは、ユネスコ憲章^{※1}に示されたユネスコの理想を実現するため、昭和28（1953）年に創設され、（1）地球規模 国連システムの理解、（2）人権、民主主義の理解と促進、（3）異文化理解、（4）環境教育、といったテーマについて、質の高い教育を実践する学校です^{※2}。特に、我が国では、持続発展教育（ESD）の普及促進のためにユネスコスクールを活用することとしております^{※3}。

本ガイドラインは、既加盟のユネスコスクールがより充実した活動をし、また今後加盟予定の学校等が効果的な活動を立案するために、重要と思われる事項をまとめたものです^{※4}。このガイドラインを参考に、今後より一層、ユネスコスクールの活動の質が向上し、ひいてはユネスコスクールが持続発展教育（ESD）の推進拠点として発展することを期待いたします^{※5}。

●● ユネスコスクールガイドライン

ユネスコスクールとして大切なこと

ユネスコスクールの活動には、次のようなことが大切ですので、各学校におかれては、これらの点を念頭において活動いただくことを期待しております。

- 国内外のユネスコスクール相互間のネットワークを介して、互いに交流相手の良さを認め合い、学び合うこと。
- 地域の社会教育機関、NPO等との連携などを通じて、開かれたネットワークを築くよう努めること。
- 校内外における各種研修の充実・活用を図るなど、ユネスコスクールの活動を通じて広く学校外にも働きかけ、我々人類社会が持続的に発展するよう心がけること。
- 学校経営方針等にユネスコスクールの活動に取り組むことを明確に示し、学校全体で組織的かつ継続的にユネスコスクールの活動に取り組みやすくすること。
- ユネスコスクールの活動を自らの学校評価の項目に盛り込み、活動の質の向上に努力すること。
- 必要に応じ、ASPUnivNet^{※6}加盟大学をはじめとする高等教育機関の支援や協力を得ながら、ユネスコスクールの活動の充実に努めること。

※1 「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない（憲章前文）」
ユネスコは、この憲章前文にあるように、諸国民の教育、科学及び文化の協力と交流を通じた国際平和と人類の共通の福祉の促進を目的として昭和21（1946）年に創設された国際連合の専門機関です。この目的は、我が国国民の深い共感を呼び、日本は昭和26（1951）年に加盟しています。

※2 現在、世界181か国に9,000校以上のユネスコスクールがあり、全世界的なネットワークを形成しています。ユネスコスクールはそのネットワークの活用による世界中の学校と生徒間・教員間の交流を通じ、情報や体験を分かち合うこと、新しい教育内容や手法の開発、発展を目指しています。日本は、制度発足当初から、ユネスコスクールの活動に取り組んできました。平成24（2012）年8月現在、日本国内のユネスコスクール数は、459校にまで増加しました。

持続発展教育（ESD）推進拠点として大切なこと

ユネスコスクールが持続発展教育（ESD）推進拠点として発展していくには、次のようなことが大切です。各学校におかれては、これらの点を念頭において活動いただくことを期待しております。

- 持続発展教育（ESD）を通じて育てたい資質や能力を明確にし、自分で、あるいは協働して、問題を見出し解決を図っていく学習の過程を重視した教育課程を編成するよう努めること。
- 総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な指導計画を立てるなど、指導内容を適切に定め、さらに、指導方法の工夫改善に努めること。
- 持続発展教育（ESD）の推進拠点として、研究・実践に取り組み、その成果を積極的に発信することを通じて、持続発展教育（ESD）の理念の普及に努めること。

持続発展教育（ESD）とは、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育であり、その中には、国際理解、環境、多文化共生、人権、平和、開発、防災などのテーマ・内容が含まれます。従って、持続発展教育（ESD）で取り上げるテーマ・内容は必ずしも新しいものではありません。むしろ、それらを持続発展教育（ESD）という新しい視点から捉え直すことにより、個別分野の取組に、持続可能な社会の構築という共通の目的を与え、具体的な活動の展開に明確な方向付けをするものです。また、それぞれの取組をお互いに結び付けることにより、既存の取組の一層の充実発展を図ることを可能にします。

持続発展教育（ESD）の実施においては、「人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと」や、「他人、社会、自然環境との関係性を認識し、関わり、つながりを尊重できる個人を育むこと」の観点が必要です。

持続発展教育（ESD）の理念は、現行の教育振興基本計画（平成20年7月策定）に盛り込まれていますし、学習指導要領（平成20年、21年公示）で示されている「生きる力」という理念にも通ずるものです。

- ※3 平成20（2008）年2月に本委員会に設置された検討会の提言によるものです。平成17（2005）年にユネスコを主導機関として開始された、「国連持続可能な開発のための教育の10年（DESD）」に関する我が国の取組の一環です。
- ※4 現時点でユネスコスクールの活動が必ずこれらの全てに沿って実施されていないという性格のものではありません。
- ※5 毎年1回、活動報告書を日本ユネスコ国内委員会事務局に提出することとされています。
- ※6 ユネスコスクールのパートナーとして、ユネスコスクールの活動を支援する大学のネットワーク。

ユネスコスクール一覧

幼稚園		
1	湖畔幼稚園	北海道 釧路市
2	わかばフレンド幼稚園	北海道 釧路市
3	みはらフレンド幼稚園	北海道 釧路市
4	愛国フレンド幼稚園	北海道 釧路市
5	清泉幼稚園	北海道 室蘭市
6	羅臼町立羅臼幼稚園	北海道 羅臼町
7	羅臼町立春松幼稚園	北海道 羅臼町
8	気仙沼市立馬籠幼稚園	宮城県 気仙沼市
9	気仙沼市立唐桑幼稚園	宮城県 気仙沼市
10	清和大学附属八重原幼稚園	千葉県 君津市
11	かおり幼稚園	山梨県 甲斐市
12	愛知教育大学附属幼稚園	愛知県 名古屋
13	奈良市立富雄北幼稚園	奈良県 奈良市
14	奈良市立二名幼稚園	奈良県 奈良市
15	奈良市立都跡幼稚園	奈良県 奈良市
16	奈良市立六条幼稚園	奈良県 奈良市
17	鳳鳴乃里幼稚舎	佐賀県 佐賀市
小学校		
18	厚岸町立太田小学校	北海道 厚岸町
19	石狩市立生振小学校	北海道 石狩市
20	石狩市立双葉小学校	北海道 石狩市
21	恵庭市立松恵小学校	北海道 恵庭市
22	江別市立対雁小学校	北海道 江別市
23	小樽市立高島小学校	北海道 小樽市
24	千歳市立緑小学校	北海道 千歳市
25	千歳市立未広小学校	北海道 千歳市
26	北海道教育大学附属釧路小学校	北海道 釧路市
27	斜里町立峰浜小学校	北海道 斜里町
28	当別町立弁華別小学校	北海道 当別町
29	羅臼町立羅臼小学校	北海道 羅臼町
30	羅臼町立春松小学校	北海道 羅臼町
31	更別村立更別小学校	北海道 河西郡
32	留寿都村立留寿都小学校	北海道 留寿都村
33	宮城教育大学附属小学校	宮城県 仙台市
34	仙台市立中野小学校	宮城県 仙台市
35	角田市立東根小学校	宮城県 角田市
36	気仙沼市立水梨小学校	宮城県 気仙沼市
37	気仙沼市立浦島小学校	宮城県 気仙沼市
38	気仙沼市立大島小学校	宮城県 気仙沼市
39	気仙沼市立面瀬小学校	宮城県 気仙沼市
40	気仙沼市立鹿折小学校	宮城県 気仙沼市
41	気仙沼市立新城小学校	宮城県 気仙沼市

42	気仙沼市立中井小学校	宮城県 気仙沼市
43	気仙沼市立白山小学校	宮城県 気仙沼市
44	気仙沼市立階上小学校	宮城県 気仙沼市
45	気仙沼市立松岩小学校	宮城県 気仙沼市
46	気仙沼市立月立小学校	宮城県 気仙沼市
47	気仙沼市立落合小学校	宮城県 気仙沼市
48	気仙沼市立唐桑小学校	宮城県 気仙沼市
49	気仙沼市立気仙沼小学校	宮城県 気仙沼市
50	気仙沼市立九条小学校	宮城県 気仙沼市
51	気仙沼市立小原小学校	宮城県 気仙沼市
52	気仙沼市立馬籠小学校	宮城県 気仙沼市
53	気仙沼市立津谷小学校	宮城県 気仙沼市
54	気仙沼市立大谷小学校	宮城県 気仙沼市
55	栗原市立高清水小学校	宮城県 栗原市
56	白石市立薮川小学校	宮城県 白石市
57	白石市立白石第二小学校	宮城県 白石市
58	白石市立白川小学校	宮城県 白石市
59	白石市立小原小学校	宮城県 白石市
60	白石市立白石第一小学校	宮城県 白石市
61	白石市立福岡小学校	宮城県 白石市
62	大崎市立鷹子小学校	宮城県 大崎市
63	大崎市立鬼首小学校	宮城県 大崎市
64	大崎市立大東小学校	宮城県 大崎市
65	大崎市立鹿島台小学校	宮城県 大崎市
66	大崎市立鹿島台第二小学校	宮城県 大崎市
67	大崎市立沼部小学校	宮城県 大崎市
68	大和町立鶴巣小学校	宮城県 大和市
69	大河原町立大河原小学校	宮城県 大河原町
70	富谷町立日吉台小学校	宮城県 富谷町
71	丸森町立金山小学校	宮城県 丸森町
72	新庄市立北辰小学校	山形県 新庄市
73	新庄市立新庄小学校	山形県 新庄市
74	新庄市立沼田小学校	山形県 新庄市
75	須賀川市立白方小学校	福島県 須賀川市
76	足利市立東山小学校	栃木県 足利市
77	高崎市立六郷小学校	群馬県 高崎市
78	藤岡市立鬼石北小学校	群馬県 藤岡市
79	藤岡市立日野小学校	群馬県 藤岡市
80	藤岡市立美九里西小学校	群馬県 藤岡市
81	前橋市立大胡東小学校	群馬県 前橋市
82	熊谷市立久下小学校	埼玉県 熊谷市
83	熊谷市立佐谷田小学校	埼玉県 熊谷市
84	さいたま市立新開小学校	埼玉県 さいたま市

85	市川市立中山小学校	千葉県 市川市	128	多摩市立諏訪小学校	東京都 多摩市
86	市川市立福越小学校	千葉県 市川市	129	多摩市立西愛宕小学校	東京都 多摩市
87	市川市立鶴指小学校	千葉県 市川市	130	多摩市立東落合小学校	東京都 多摩市
88	市川市立大野小学校	千葉県 市川市	131	調布市立布田小学校	東京都 調布市
89	市原市立辰巳台西小学校	千葉県 市原市	132	横浜市立永田台小学校	神奈川県 横浜市
90	千葉市立白井小学校	千葉県 千葉市	133	横浜市立幸ヶ谷小学校	神奈川県 横浜市
91	荒川区立尾久宮前小学校	東京都 荒川区	134	横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉小学校	神奈川県 鎌倉市
92	大田区立赤松小学校	東京都 大田区	135	新潟市立山下小学校	新潟県 新潟市
93	葛飾区立青戸小学校	東京都 葛飾区	136	新潟市立上山小学校	新潟県 新潟市
94	江東区立東雲小学校	東京都 江東区	137	柏崎市立北鱈石小学校	新潟県 柏崎市
95	江東区立八名川小学校	東京都 江東区	138	佐渡市立相川小学校	新潟県 佐渡市
96	新宿区立西戸山小学校	東京都 新宿区	139	十日町市立飛渡第一小学校	新潟県 十日町市
97	世田谷区立中里小学校	東京都 世田谷区	140	見附市立見附小学校	新潟県 見附市
98	東京学芸大学附属大泉小学校	東京都 練馬区	141	見附市立田井小学校	新潟県 見附市
99	聖心女子学院初等科	東京都 港区	142	見附市立北上谷小学校	新潟県 見附市
100	目黒区立五本木小学校	東京都 目黒区	143	見附市立見附第二小学校	新潟県 見附市
101	小笠原村立小笠原小学校	東京都 小笠原村	144	見附市立今町小学校	新潟県 見附市
102	小笠原村立母島小学校	東京都 小笠原村	145	見附市立名木野小学校	新潟県 見附市
103	稲城市立稲城第二小学校	東京都 稲城市	146	見附市立葛巻小学校	新潟県 見附市
104	稲城市立稲城第三小学校	東京都 稲城市	147	見附市立新潟小学校	新潟県 見附市
105	稲城市立向陽台小学校	東京都 稲城市	148	新潟大学教育学部附属長岡小学校	新潟県 長岡市
106	稲城市立稲城第六小学校	東京都 稲城市	149	富山市立中央小学校	富山県 富山市
107	稲城市立稲城第七小学校	東京都 稲城市	150	富山市立寒江小学校	富山県 富山市
108	稲城市立稲城第四小学校	東京都 稲城市	151	富山市立五福小学校	富山県 富山市
109	稲城市立長峰小学校	東京都 稲城市	152	富山市立光陽小学校	富山県 富山市
110	稲城市立平尾小学校	東京都 稲城市	153	富山市立堀川小学校	富山県 富山市
111	稲城市立若葉台小学校	東京都 稲城市	154	富山市立神通碧小学校	富山県 富山市
112	清瀬市立清明小学校	東京都 清瀬市	155	富山市立古沢小学校	富山県 富山市
113	多摩市立永山小学校	東京都 多摩市	156	氷見市立朝日丘小学校	富山県 氷見市
114	多摩市立西落合小学校	東京都 多摩市	157	金沢市立浅野川小学校	石川県 金沢市
115	多摩市立貝取小学校	東京都 多摩市	158	金沢市立朝日小学校	石川県 金沢市
116	多摩市立豊ヶ丘小学校	東京都 多摩市	159	金沢市立金石町小学校	石川県 金沢市
117	多摩市立北諏訪小学校	東京都 多摩市	160	金沢市立材木町小学校	石川県 金沢市
118	多摩市立南鶴牧小学校	東京都 多摩市	161	金沢市立四十万小学校	石川県 金沢市
119	多摩市立東寺方小学校	東京都 多摩市	162	金沢市立田上小学校	石川県 金沢市
120	多摩市立多摩第二小学校	東京都 多摩市	163	金沢市立戸板小学校	石川県 金沢市
121	多摩市立多摩第三小学校	東京都 多摩市	164	金沢市立野町小学校	石川県 金沢市
122	多摩市立東愛宕小学校	東京都 多摩市	165	金沢市立森山町小学校	石川県 金沢市
123	多摩市立連光寺小学校	東京都 多摩市	166	金沢市立弥生小学校	石川県 金沢市
124	多摩市立大松台小学校	東京都 多摩市	167	金沢市立中央小学校	石川県 金沢市
125	多摩市立多摩第一小学校	東京都 多摩市	168	金沢市立花菱小学校	石川県 金沢市
126	多摩市立聖ヶ丘小学校	東京都 多摩市	169	金沢市立花園小学校	石川県 金沢市
127	多摩市立瓜生小学校	東京都 多摩市	170	金沢市立三馬小学校	石川県 金沢市

ユネスコスクール一覧

171	金沢市立味噌蔵町小学校	石川県 金沢市	214	一宮市立西成小学校	愛知県 一宮市
172	金沢市立三谷小学校	石川県 金沢市	215	一宮市立浅井北小学校	愛知県 一宮市
173	金沢市立長坂台小学校	石川県 金沢市	216	一宮市立朝日西小学校	愛知県 一宮市
174	金沢市立西小学校	石川県 金沢市	217	一宮市立末広小学校	愛知県 一宮市
175	金沢市立大野町小学校	石川県 金沢市	218	一宮市立千秋小学校	愛知県 一宮市
176	金沢市立押野小学校	石川県 金沢市	219	一宮市立粟栗小学校	愛知県 一宮市
177	金沢市立内川小学校	石川県 金沢市	220	一宮市立粟栗北小学校	愛知県 一宮市
178	金沢市立湯涌小学校	石川県 金沢市	221	一宮市立宮西小学校	愛知県 一宮市
179	金沢市立十一屋小学校	石川県 金沢市	222	岡崎市立梅園小学校	愛知県 岡崎市
180	金沢市立明成小学校	石川県 金沢市	223	岡崎市立常磐南小学校	愛知県 岡崎市
181	金沢市立千坂小学校	石川県 金沢市	224	岡崎市立城南小学校	愛知県 岡崎市
182	金沢市立夕日寺小学校	石川県 金沢市	225	岡崎市立男川小学校	愛知県 岡崎市
183	金沢市立粟崎小学校	石川県 金沢市	226	岡崎市立細川小学校	愛知県 岡崎市
184	金沢市立犀川小学校	石川県 金沢市	227	岡崎市立六ツ美中部小学校	愛知県 岡崎市
185	金沢市立南小立野小学校	石川県 金沢市	228	岡崎市立形禁小学校	愛知県 岡崎市
186	金沢市立伏見台小学校	石川県 金沢市	229	愛知教育大学附属岡崎小学校	愛知県 岡崎市
187	金沢市立扇台小学校	石川県 金沢市	230	刈谷市立富士松南小学校	愛知県 刈谷市
188	金沢市立泉野小学校	石川県 金沢市	231	豊橋市立幸小学校	愛知県 豊橋市
189	金沢市立小立野小学校	石川県 金沢市	232	豊橋市立羽根井小学校	愛知県 豊橋市
190	金沢市立米泉小学校	石川県 金沢市	233	豊橋市立松山小学校	愛知県 豊橋市
191	金沢市立杜の里小学校	石川県 金沢市	234	豊橋市立大崎小学校	愛知県 豊橋市
192	金沢市立不動寺小学校	石川県 金沢市	235	名古屋市立東築地小学校	愛知県 名古屋
193	金沢市立東浅川小学校	石川県 金沢市	236	名古屋市立愛知小学校	愛知県 名古屋
194	金沢市立森本小学校	石川県 金沢市	237	名古屋市立有松小学校	愛知県 名古屋
195	金沢市立中村町小学校	石川県 金沢市	238	名古屋市立笠島小学校	愛知県 名古屋
196	金沢市立新神田小学校	石川県 金沢市	239	名古屋市立八熊小学校	愛知県 名古屋
197	金沢市立富樫小学校	石川県 金沢市	240	愛知教育大学附属名古屋小学校	愛知県 名古屋
198	輪島市立三井小学校	石川県 輪島市	241	樺山女学園大学附属小学校	愛知県 名古屋
199	内灘町立向粟崎小学校	石川県 内灘町	242	西尾市立西尾小学校	愛知県 西尾市
200	内灘町立清湖小学校	石川県 内灘町	243	東浦町立緒川小学校	愛知県 東浦町
201	内灘町立鶴ヶ丘小学校	石川県 内灘町	244	鈴鹿市立飯野小学校	三重県 鈴鹿市
202	内灘町立大根布小学校	石川県 内灘町	245	鈴鹿市立神戸小学校	三重県 鈴鹿市
203	内灘町立西荒屋小学校	石川県 内灘町	246	鈴鹿市立牧田小学校	三重県 鈴鹿市
204	能美市立粟生小学校	石川県 能美市	247	名張市立蔵持小学校	三重県 名張市
205	坂井市立鳴鹿小学校	福井県 坂井市	248	名張市立名張小学校	三重県 名張市
206	小浜市立内外海小学校	福井県 小浜市	249	名張市立箕曲小学校	三重県 名張市
207	南アルプス市立芦安小学校	山梨県 南アルプス市	250	名張市立桔梗が丘小学校	三重県 名張市
208	岐阜市立島小学校	岐阜県 岐阜市	251	名張市立薦原小学校	三重県 名張市
209	静岡サレジオ小学校	静岡県 静岡市	252	名張市立国津小学校	三重県 名張市
210	富士市立岩松北小学校	静岡県 富士市	253	彦根市立城西小学校	滋賀県 彦根市
211	あま市立基目寺小学校	愛知県 あま市	254	京都市立上賀茂小学校	京都府 京都市
212	安城市立里町小学校	愛知県 安城市	255	京都市立乾隆小学校	京都府 京都市
213	一宮市立中島小学校	愛知県 一宮市	256	京都市立茶竹小学校	京都府 京都市

257	京都市立下京涉成小学校	京都府 京都市	300	岡山市立足守小学校	岡山県 岡山市
258	京都市立梅津北小学校	京都府 京都市	301	岡山市立竹枝小学校	岡山県 岡山市
259	大阪市立御幸森小学校	大阪府 大阪市	302	岡山市立福渡小学校	岡山県 岡山市
260	大阪市立関目東小学校	大阪府 大阪市	303	岡山市立甲浦小学校	岡山県 岡山市
261	大阪市立高殿小学校	大阪府 大阪市	304	岡山市立小串小学校	岡山県 岡山市
262	大阪市立晴明丘小学校	大阪府 大阪市	305	岡山市立御南小学校	岡山県 岡山市
263	豊中市立上野小学校	大阪府 豊中市	306	岡山市立立島小学校	岡山県 岡山市
264	豊中市立新田小学校	大阪府 豊中市	307	岡山市立西小学校	岡山県 岡山市
265	豊中市立桜井谷小学校	大阪府 豊中市	308	岡山市立宇野小学校	岡山県 岡山市
266	松原市立三宅小学校	大阪府 松原市	309	岡山市立伊島小学校	岡山県 岡山市
267	松原市立恵我南小学校	大阪府 松原市	310	岡山市立政田小学校	岡山県 岡山市
268	河内長野市立美加の台小学校	大阪府 河内長野市	311	岡山市立福島小学校	岡山県 岡山市
269	奈良市立飛鳥小学校	奈良県 奈良市	312	岡山市立開成小学校	岡山県 岡山市
270	奈良市立帯解小学校	奈良県 奈良市	313	岡山市立南薮小学校	岡山県 岡山市
271	奈良市立清美小学校	奈良県 奈良市	314	岡山市立三鞆小学校	岡山県 岡山市
272	奈良市立佐保川小学校	奈良県 奈良市	315	広島大学附属小学校	広島県 広島市
273	奈良市立椿井小学校	奈良県 奈良市	316	広島市立幟町小学校	広島県 広島市
274	奈良市立鳥見小学校	奈良県 奈良市	317	広島市立大林小学校	広島県 広島市
275	奈良市立二名小学校	奈良県 奈良市	318	尾道市立山波小学校	広島県 尾道市
276	奈良市立佐保小学校	奈良県 奈良市	319	大竹市立粟谷小学校	広島県 大竹市
277	奈良市立鼓阪小学校	奈良県 奈良市	320	三次市立安田小学校	広島県 三次市
278	奈良市立清美南小学校	奈良県 奈良市	321	海田町立海田東小学校	広島県 海田町
279	奈良市立鶴舞小学校	奈良県 奈良市	322	熊野町立熊野第一小学校	広島県 熊野町
280	奈良市立都跡小学校	奈良県 奈良市	323	熊野町立熊野第二小学校	広島県 熊野町
281	奈良市立鼓阪北小学校	奈良県 奈良市	324	熊野町立熊野第三小学校	広島県 熊野町
282	奈良市立東市小学校	奈良県 奈良市	325	熊野町立熊野第四小学校	広島県 熊野町
283	奈良市立柳生小学校	奈良県 奈良市	326	北広島町立新庄小学校	広島県 北広島町
284	橿原市立今井小学校	奈良県 橿原市	327	福山市立内海小学校	広島県 福山市
285	和歌山市立広瀬小学校	和歌山県 和歌山市	328	福山市立駅家西小学校	広島県 福山市
286	田辺市立三栖小学校	和歌山県 田辺市	329	藍住町立藍住南小学校	徳島県 藍住町
287	橋本市立紀見小学校	和歌山県 橋本市	330	藍住町立藍住北小学校	徳島県 藍住町
288	岩美町立岩美南小学校	鳥取県 岩美郡	331	藍住町立藍住西小学校	徳島県 藍住町
289	岩美町立岩美北小学校	鳥取県 岩美郡	332	藍住町立藍住東小学校	徳島県 藍住町
290	岩美町立岩美西小学校	鳥取県 岩美郡	333	三豊市立下高瀬小学校	香川県 三豊市
291	矢掛町立三谷小学校	岡山県 矢掛町	334	松山市立新玉小学校	愛媛県 松山市
292	矢掛町立中川小学校	岡山県 矢掛町	335	四万十町立七里小学校	高知県 四万十町
293	矢掛町立矢掛小学校	岡山県 矢掛町	336	北九州市立赤崎小学校	福岡県 北九州市
294	岡山市立第一藤田小学校	岡山県 岡山市	337	北九州市立すがお小学校	福岡県 北九州市
295	岡山市立第三藤田小学校	岡山県 岡山市	338	北九州市立市丸小学校	福岡県 北九州市
296	岡山市立第二藤田小学校	岡山県 岡山市	339	大牟田市立駿馬南小学校	福岡県 大牟田市
297	岡山市立蛸明小学校	岡山県 岡山市	340	大牟田市立駿馬北小学校	福岡県 大牟田市
298	岡山市立福田小学校	岡山県 岡山市	341	大牟田市立天の原小学校	福岡県 大牟田市
299	岡山市立建部小学校	岡山県 岡山市	342	大牟田市立玉川小学校	福岡県 大牟田市

ユネスコスクール一覧

343	大牟田市立上宮小学校	福岡県 大牟田市	385	気仙沼市立松岩中学校	宮城県 気仙沼市
344	大牟田市立大正小学校	福岡県 大牟田市	386	気仙沼市立大谷中学校	宮城県 気仙沼市
345	大牟田市立中友小学校	福岡県 大牟田市	387	気仙沼市立津谷中学校	宮城県 気仙沼市
346	大牟田市立明治小学校	福岡県 大牟田市	388	白石市立小原中学校	宮城県 白石市
347	大牟田市立白川小学校	福岡県 大牟田市	389	白石市立白川中学校	宮城県 白石市
348	大牟田市立平原小学校	福岡県 大牟田市	390	白石市立東中学校	宮城県 白石市
349	大牟田市立高取小学校	福岡県 大牟田市	391	白石市立南中学校	宮城県 白石市
350	大牟田市立三池小学校	福岡県 大牟田市	392	白石市立白石中学校	宮城県 白石市
351	大牟田市立銀水小学校	福岡県 大牟田市	393	大崎市立田尻中学校	宮城県 大崎市
352	大牟田市立上内小学校	福岡県 大牟田市	394	大崎市立古川北中学校	宮城県 大崎市
353	大牟田市立吉野小学校	福岡県 大牟田市	395	南三陸町立志津川中学校	宮城県 南三陸町
354	大牟田市立倉永小学校	福岡県 大牟田市	396	大崎市立大曲南中学校	秋田県 大崎市
355	大牟田市立手鎌小学校	福岡県 大牟田市	397	新庄市立新庄中学校	山形県 新庄市
356	大牟田市立大牟田小学校	福岡県 大牟田市	398	足利市立山辺中学校	栃木県 足利市
357	大牟田市立羽山台小学校	福岡県 大牟田市	399	宇都宮市立一条中学校	栃木県 宇都宮市
358	大牟田市立みなと小学校	福岡県 大牟田市	400	藤岡市立小野中学校	群馬県 藤岡市
359	大牟田市立天領小学校	福岡県 大牟田市	401	藤岡市立北中学校	群馬県 藤岡市
360	玄海町立有徳小学校	佐賀県 玄海町	402	成田市立玉造中学校	千葉県 成田市
361	玄海町立徳賀小学校	佐賀県 玄海町	403	大田区立大森第六中学校	東京都 大田区
362	宇城市立小川小学校	熊本県 宇城市	404	江東区立深川第一中学校	東京都 江東区
363	宇城市立海東小学校	熊本県 宇城市	405	江東区立第二南砂中学校	東京都 江東区
364	金武町立中川小学校	沖縄県 金武町	406	世田谷区立喜多見中学校	東京都 世田谷区
中学校					
365	札幌市立手稲西中学校	北海道 札幌市	407	世田谷区立駒沢中学校	東京都 世田谷区
366	北海道教育大学附属札幌中学校	北海道 札幌市	408	聖心女子学院中等科	東京都 港区
367	北広島市立西部中学校	北海道 北広島市	409	稲城市立稲城第四中学校	東京都 稲城市
368	羅臼町立羅臼中学校	北海道 羅臼町	410	稲城市立稲城第三中学校	東京都 稲城市
369	羅臼町立春松中学校	北海道 羅臼町	411	稲城市立稲城第六中学校	東京都 稲城市
370	当別町立弁華別中学校	北海道 当別町	412	多摩市立東雲中学校	東京都 多摩市
371	仙台市立南吉成中学校	宮城県 仙台市	413	多摩市立諏訪中学校	東京都 多摩市
372	岩沼市立岩沼中学校	宮城県 岩沼市	414	多摩市立聖ヶ丘中学校	東京都 多摩市
373	大河原町立金ヶ瀬中学校	宮城県 大河原町	415	多摩市立多摩中学校	東京都 多摩市
374	大河原町立大河原中学校	宮城県 大河原町	416	多摩市立和田中学校	東京都 多摩市
375	角田市立角田中学校	宮城県 角田市	417	多摩市立青稜中学校	東京都 多摩市
376	気仙沼市立面瀬中学校	宮城県 気仙沼市	418	多摩市立鶴牧中学校	東京都 多摩市
377	気仙沼市立気仙沼中学校	宮城県 気仙沼市	419	多摩市立落合中学校	東京都 多摩市
378	気仙沼市立鹿折中学校	宮城県 気仙沼市	420	多摩市立多摩永山中学校	東京都 多摩市
379	気仙沼市立階上中学校	宮城県 気仙沼市	421	横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉中学校	神奈川県 鎌倉市
380	気仙沼市立新月中学校	宮城県 気仙沼市	422	横浜市立市ヶ尾中学校	神奈川県 横浜市
381	気仙沼市立唐桑中学校	宮城県 気仙沼市	423	新潟市立巻東中学校	新潟県 新潟市
382	気仙沼市立大島中学校	宮城県 気仙沼市	424	新潟市立白新中学校	新潟県 新潟市
383	気仙沼市立桑南中学校	宮城県 気仙沼市	425	新潟市立横越中学校	新潟県 新潟市
384	気仙沼市立小原木中学校	宮城県 気仙沼市	426	新潟市立赤塚中学校	新潟県 新潟市
			427	新潟市立宮浦中学校	新潟県 新潟市

428	見附市立今町中学校	新潟県 見附市	471	豊中市立第十一中学校	大阪府 豊中市
429	長岡市立南中学校	新潟県 長岡市	472	豊中市立第二中学校	大阪府 豊中市
430	新潟大学教育学部附属長岡中学校	新潟県 長岡市	473	寝屋川市立第十中学校	大阪府 寝屋川市
431	南魚沼市立大巻中学校	新潟県 南魚沼市	474	松原市立松原第七中学校	大阪府 松原市
432	富山大学人間発達科学部附属中学校	富山県 富山市	475	尼崎市立成良中学校	兵庫県 尼崎市
433	金沢市立紫錦台中学校	石川県 金沢市	476	奈良教育大学附属中学校	奈良県 奈良市
434	金沢市立泉中学校	石川県 金沢市	477	奈良市立興東中学校	奈良県 奈良市
435	金沢市立芝原中学校	石川県 金沢市	478	奈良市立月ヶ瀬中学校	奈良県 奈良市
436	金沢市立内川中学校	石川県 金沢市	479	奈良市立三笠中学校	奈良県 奈良市
437	金沢市立小罾町中学校	石川県 金沢市	480	奈良市立柳生中学校	奈良県 奈良市
438	金沢市立兼六中学校	石川県 金沢市	481	奈良市立平城西中学校	奈良県 奈良市
439	内灘町立内灘中学校	石川県 内灘町	482	奈良市立二名中学校	奈良県 奈良市
440	小松市立板津中学校	石川県 小松市	483	奈良市立都南中学校	奈良県 奈良市
441	七尾市立能登香島中学校	石川県 七尾市	484	奈良市立京西中学校	奈良県 奈良市
442	七尾市立朝日中学校	石川県 七尾市	485	奈良市立富雄中学校	奈良県 奈良市
443	能美市立根上中学校	石川県 能美市	486	橿原市立歌傍中学校	奈良県 橿原市
444	敦賀気比高等学校付属中学校	福井県 敦賀市	487	和歌山市立伏虎中学校	和歌山県 和歌山市
445	南アルプス市立芦安中学校	山梨県 南アルプス市	488	岡山市立藤田中学校	岡山県 岡山市
446	信州大学教育学部附属松本中学校	長野県 松本市	489	岡山市立福田中学校	岡山県 岡山市
447	静岡市立玉川中学校	静岡県 静岡市	490	岡山市立建部中学校	岡山県 岡山市
448	伊豆市立天城中学校	静岡県 伊豆市	491	岡山市立光南台中学校	岡山県 岡山市
449	静岡大学教育学部附属島田中学校	静岡県 島田市	492	岡山市立京山中学校	岡山県 岡山市
450	名古屋市立丸の内中学校	愛知県 名古屋市	493	岡山市立足守中学校	岡山県 岡山市
451	名古屋市立汐路中学校	愛知県 名古屋市	494	岡山市立操山中学校	岡山県 岡山市
452	名古屋市立笹島中学校	愛知県 名古屋市	495	岡山市立御南中学校	岡山県 岡山市
453	名古屋市立菊井中学校	愛知県 名古屋市	496	岡山市立御南中学校	岡山県 岡山市
454	名古屋市立前津中学校	愛知県 名古屋市	497	岡山市立立上南中学校	岡山県 岡山市
455	名古屋市立若水中学校	愛知県 名古屋市	498	山陽学園中等部	広島県 廿日市市
456	愛知教育大学附属名古屋中学校	愛知県 名古屋市	499	広島大学附属中学校	広島県 広島市
457	安城市立東山中学校	愛知県 安城市	500	広島市立古田中学校	広島県 広島市
458	一宮市立萩原中学校	愛知県 一宮市	501	如水館中学校	広島県 三原市
459	岡崎市立竜南中学校	愛知県 岡崎市	502	熊野町立熊野中学校	広島県 熊野町
460	岡崎市立新香山中学校	愛知県 岡崎市	503	熊野町立熊野東中学校	広島県 熊野町
461	岡崎市立常磐中学校	愛知県 岡崎市	504	周南市立太基中学校	山口県 周南市
462	愛知教育大学附属岡崎中学校	愛知県 岡崎市	505	防府市立佐渡中学校	山口県 防府市
463	豊橋市立草南中学校	愛知県 豊橋市	506	北九州市立早鞆中学校	福岡県 北九州市
464	鈴鹿市立神戸中学校	三重県 鈴鹿市	507	大牟田市立船津中学校	福岡県 大牟田市
465	鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校	三重県 鈴鹿市	508	大牟田市立右京中学校	福岡県 大牟田市
466	三重大学教育学部附属中学校	三重県 津市	509	大牟田市立米生中学校	福岡県 大牟田市
467	名張市立北中学校	三重県 名張市	510	大牟田市立勝立中学校	福岡県 大牟田市
468	名張市立南中学校	三重県 名張市	511	大牟田市立延命中学校	福岡県 大牟田市
469	東近江市立五個荘中学校	滋賀県 東近江市	512	大牟田市立松原中学校	福岡県 大牟田市
470	大阪市立鶴見橋中学校	大阪府 大阪市	513	大牟田市立白光中学校	福岡県 大牟田市

ユネスコスクール一覧

514	大牟田市立歴木中学校	福岡県 大牟田市
515	大牟田市立田隈中学校	福岡県 大牟田市
516	大牟田市立橘中学校	福岡県 大牟田市
517	大牟田市立甘木中学校	福岡県 大牟田市
518	北九州市立尾倉中学校	福岡県 北九州市
519	福岡市立元岡中学校	福岡県 福岡市
520	宇城市立不知火中学校	熊本県 宇城市
521	阿久根市立大川中学校	鹿児島県 阿久根市
522	北谷町立北谷中学校	沖縄県 北谷町
中高一貫等		
523	北海道登別明日中等教育学校	北海道 登別市
524	釧路市立山花小中学校	北海道 釧路市
525	標茶町立中茶安別小中学校	北海道 標茶町
526	斜里町立ウトロ小中学校	北海道 斜里町
527	宮城県仙台二華中学校・高等学校	宮城県 仙台市
528	仙台育英学園秀光中等教育学校	宮城県 多賀城市
529	聖ウルスラ学院英智小中学校	宮城県 仙台市
530	茨城県立並木中等教育学校	茨城県 つくば市
531	新島学園中学校・高等学校	群馬県 安中市
532	市川中学校・市川高等学校	千葉県 市川市
533	渋谷教育学園幕張中学・高等学校	千葉県 千葉市
534	麗澤中学・高等学校	千葉県 柏市
535	東京都足立区興本扇学園	東京都 足立区
536	昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校	東京都 世田谷区
537	田園調布学園中等部・高等部	東京都 世田谷区
538	雙葉中学校・高等学校	東京都 千代田区
539	東京学芸大学附属国際中等教育学校	東京都 練馬区
540	兎華学園中学校・高等学校	東京都 調布市
541	武蔵野女子学院中学校・高等学校	東京都 西東京市
542	湘南学園中学校・高等学校	神奈川県 藤沢市
543	新潟県立燕中等教育学校	新潟県 燕市
544	山梨英和中学校・高等学校	山梨県 甲府市
545	不二聖心女子学院	静岡県 裾野市
546	星陵中学校・高等学校	静岡県 富士宮市
547	名古屋大学教育学部附属中・高等学校	愛知県 名古屋
548	立命館守山中学校・高等学校	滋賀県 守山市
549	平安女学院中学・高等学校	京都府 京都市
550	燈影学園（一燈園小学校・中学校・高等学校）	京都府 京都市
551	浪速中学校・高等学校	大阪府 大阪市
552	大阪学芸中等教育学校	大阪府 大阪市
553	帝塚山学院ヶ丘中学校高等学校	大阪府 堺市
554	箕面市立彩都の丘学園	大阪府 箕面市
555	奈良女子大学附属中等教育学校	奈良県 奈良市

556	奈良市市原小中学校	奈良県 奈良市
557	奈良市富雄第二小中学校	奈良県 奈良市
558	清心中学校・清心女子高等学校	岡山県 倉敷市
559	広島県立広島中学校・広島高等学校	広島県 東広島市
560	高水高等学校付属中学校／高水高等学校	山口県 岩国市
高等学校		
561	市立札幌大通高等学校	北海道 札幌市
562	札幌山の手高等学校	北海道 札幌市
563	北海道遠軽高等学校	北海道 遠軽町
564	北海道上／国高等学校	北海道 上ノ国町
565	北海道清里高等学校	北海道 清里町
566	北海道斜里高等学校	北海道 斜里町
567	海星学院高等学校	北海道 室蘭市
568	北海道羅臼高等学校	北海道 羅臼町
569	北海道礼文高等学校	北海道 礼文町
570	北海道留辺蘂高等学校	北海道 北見市
571	盛岡中央高等学校	岩手県 盛岡市
572	宮城県気仙沼高等学校	宮城県 気仙沼市
573	宮城県気仙沼西高等学校	宮城県 気仙沼市
574	秋田市立秋田商業高等学校	秋田県 秋田市
575	明桜高等学校	秋田県 秋田市
576	福島県立安達高等学校	福島県 二本松市
577	国際学院高等学校	埼玉県 伊奈町
578	筑波大学附属坂戸高等学校	埼玉県 坂戸市
579	千葉県立市川南高等学校	千葉県 市川市
580	千葉県立国分高等学校	千葉県 市川市
581	市原中央高等学校	千葉県 市原市
582	千葉県立佐倉南高等学校	千葉県 佐倉市
583	千葉県立流山おおたかの森高等学校	千葉県 流山市
584	千葉県立千葉東高等学校	千葉県 千葉市
585	千葉黎明高等学校	千葉県 八街市
586	渋谷教育学園渋谷高等学校	東京都 渋谷区
587	東京都立杉並総合高等学校	東京都 杉並区
588	筑波大学附属駒場高等学校	東京都 世田谷区
589	東京都立三田高等学校	東京都 港区
590	聖心女子学院高等科	東京都 港区
591	八王子学園八王子高等学校	東京都 八王子市
592	慶應義塾高等学校	神奈川県 横浜市
593	神奈川県立有馬高等学校	神奈川県 海老名市
594	富山国際大学付属高等学校	富山県 富山市
595	福井工業大学附属福井高等学校	福井県 福井市
596	新潟県立国際情報高等学校	新潟県 南魚沼市
597	岐阜聖徳学園高等学校	岐阜県 岐阜市

598	静岡県立伊豆総合高等学校	静岡県 伊豆市
599	愛知県立刈谷高等学校	愛知県 刈谷市
600	愛知県立豊田東高等学校	愛知県 豊田市
601	愛知県立千種高等学校	愛知県 名古屋
602	名古屋市立山田高等学校	愛知県 名古屋
603	愛知県立愛知商業高等学校	愛知県 名古屋
604	愛知県立刈谷北高等学校	愛知県 刈谷市
605	中部大学第一高等学校	愛知県 日進市
606	三重県立木本高等学校	三重県 熊野市
607	京都外大西高等学校	京都府 京都市
608	京都市立紫野高等学校	京都府 京都市
609	大阪府立北淀高等学校	大阪府 大阪市
610	大阪府立住吉高等学校	大阪府 大阪市
611	明浄学院高等学校	大阪府 大阪市
612	大阪府立西淀川高等学校	大阪府 大阪市
613	大阪府立市岡高等学校	大阪府 大阪市
614	大阪教育大学附属高等学校池田校舎	大阪府 池田市
615	大阪府立佐野高等学校	大阪府 泉佐野市
616	大阪府立長野高等学校	大阪府 河内長野市
617	羽衣学園高等学校	大阪府 高石市
618	大阪府立能勢高等学校	大阪府 能勢町
619	大阪府立枚方高等学校	大阪府 枚方市
620	大阪府立松原高等学校	大阪府 松原市
621	大阪府立北摂つばさ高等学校	大阪府 茨木市
622	大阪府立富田林高等学校	大阪府 富田林市
623	神戸市立葺合高等学校	兵庫県 神戸市
624	兵庫県立三木北高等学校	兵庫県 三木市
625	奈良県立法隆寺国際高等学校	奈良県 斑鳩町
626	和歌山県立星林高等学校	和歌山県 和歌山市
627	和歌山県立串本古座高等学校	和歌山県 串本町
628	島根県立島根中央高等学校	島根県 川本町
629	岡山県立岡山一宮高等学校	岡山県 岡山市
630	岡山学芸館高等学校	岡山県 岡山市
631	岡山龍谷高等学校	岡山県 笠岡市
632	岡山県美作高等学校	岡山県 津山市
633	岡山県立林野高等学校	岡山県 美作市
634	岡山県立矢掛高等学校	岡山県 矢掛町
635	岡山県立和気開谷高等学校	岡山県 和気町
636	広島大学附属高等学校	広島県 広島市
637	広島県立広島国泰寺高等学校	広島県 広島市
638	広島県立広島井口高等学校	広島県 広島市
639	山陽高等学校	広島県 広島市
640	広島県立安古市高等学校	広島県 広島市

641	広島県立尾道北高等学校	広島県 尾道市
642	広島県立呉三津田高等学校	広島県 呉市
643	山陽女子学園高等部	広島県 廿日市市
644	広島県立福山誠之館高等学校	広島県 福山市
645	広島県立安芸府中高等学校	広島県 府中町
646	如水館高等学校	広島県 三原市
647	広島県立三次高等学校	広島県 三次市
648	広島県立賀茂高等学校	広島県 東広島市
649	広島県立府中高等学校	広島県 府中市
650	徳島県立徳島科学技術高等学校	徳島県 徳島市
651	香川県立観音寺中央高等学校	香川県 観音寺市
652	香川県立高松桜井高等学校	香川県 高松市
653	愛媛県立新居浜南高等学校	愛媛県 新居浜市
654	愛媛県立新居浜東高等学校	愛媛県 新居浜市
655	福岡県立城南高等学校	福岡県 福岡市
656	福岡県立香住丘高等学校	福岡県 福岡市
657	福岡県立ひびき高等学校	福岡県 北九州市
658	福岡県立武蔵台高等学校	福岡県 筑紫野市
大学		
659	国立大学法人宮城教育大学	宮城県 仙台市
660	玉川大学（教育学部）	東京都 町田市
661	国立大学法人愛知教育大学	愛知県 刈谷市
662	国立大学法人三重大学	三重県 津市
663	国立大学法人奈良教育大学	奈良県 奈良市
高専		
664	国立石川工業高等専門学校	石川県 津幡町
養護学校		
665	見附市立見附特別支援学校	新潟県 見附市
666	大牟田市立大牟田特別支援学校	福岡県 大牟田市
その他		
667	練馬和光保育園	東京都 練馬区
668	もみの木保育園太子堂	東京都 世田谷区
669	もみの木保育園若葉台	東京都 稲城市
670	もみの木保育園長峰	東京都 稲城市
671	ナーサリー富田幼児園	徳島県 徳島市
672	東京賢治シュタイナー学園	東京都 立川市
673	横浜シュタイナー学園	神奈川県 横浜市
674	京田辺シュタイナー学校	京都府 京田辺市
675	コリア国際学園	大阪府 茨木市

文部科学省委託事業 平成25年度日本/ユネスコパートナーシップ事業

ユネスコスクール地域交流会 in 広島 発表事例集

学校&みんなのESDプロジェクト
ひろがり つながるESD実践事例

発行日 2014年3月13日

発行 公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)
〒162-8484 東京都新宿区袋町6 日本出版会館
TEL : 03-3269-4435 FAX : 03-3269-4510
URL : <http://www.accu.or.jp/>

編集協力・デザイン 印刷・製本 株式会社ワコー

ISBN 978-4-946438-93-6

UNESCO ASPnet

Education for Sustainable Development